資料－２

矢作川流域圏懇談会　山部会 WG

平成２７年度の活動

（第５回全体会議資料より）

3．各テーマの活動進捗

テーマ	内容	活動日程・概要	進捗
山村再生担い手づくり事例集	森林の適切な管理は山村の再生が重要。そのため、先ずは人づくりに取り組む。	・第 24 回 WG ⇒過年度の成果と今年度の予定 ・第 25 回 WG～第 27 回 WG ⇒流域マップの作成確認と取材先の検討 ・第 28 回 WG ⇒取材先の決定共有・取材者の募集 ・第 29 回 WG ⇒取材先と取材者の決定共有 ・第 30 回 WG～第 31 回 WG ⇒進捗報告	・取材先として、山・海の生業だけでなく、文化的な担い手（例 日近太鼓等）も対象に広げた。 ・過年度に続き山・川・海の部会員が連携し、取材や執筆活動を行った。 ・今年度は平成 25 年度、平成 26 年度に続く山村再生担い手づくり事例集(vol.3)を成果とする。 ・取材先（3 ヶ年分）の活動拠点について、山村再生担い手づくり事例集マップ（仮）として、活動拠点を地図上に示した。 ・大学の講義（体験実習）に山村再生担い手づくり事例集が活用されたこと等、成果の活用事例が報告された。
山村ミーティング	山村再生を支援する取組みへの参加・情報共有を行う。	・第 24 回 WG ⇒イベントの対象について確認 ・第 25 回 WG～第 31 回 WG ⇒山川海の流域フェスティバルの目的、素人山主とプロの誘い方等課題を共有	・北海道中川町のきこり祭り等、目標とするイベントの事例が紹介された。 ・きこり祭り（林業従事者やボランティア）に対象を絞るのは、矢作川流域圏の規模が大きいことや関係者間の価値観の違い等から、難しいことが話し合われた。 ・山・川・海の WG を越えた流域のイベントを行ってはどうかという意見が出された。 ・新たなイベントの具体的な開催時期や開催内容は、今後の WG で検討する予定である。
森づくりガイドライン	流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインを作る。	・第 24 回 WG ⇒豊田市の森づくりの事例 ・第 25 回 WG～26 回 WG ⇒流域の森づくりに関する事例収集、近自然森づくりの情報共有 ・第 27 回 WG～第 28 回 WG ⇒岡崎市・流域の森づくりの事例 ・第 29 回 WG～31 回 WG ⇒流域の間伐面積と森づくりに関する事例紹介	・豊田市における森づくりに関する新規事業を市の担当者より報告され、意見交換を行った。 ・岡崎市における水循環推進協議会「緑のダム部会」の先進事例が周知され、意見交換を行った。 ・矢作川流域圏の森づくりや間伐の実績について、情報収集と意見交換を行った。 ・額田木の駅の稼働状況について情報共有を行った。 ・矢作川流域の特徴的な森林および巨木・並木について、WG で選定をおこなっている。 ・近自然森づくりについて、荒山林業を視察し、矢作川流域圏への展開を検討した。
木づかいガイドライン	矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。	・第 24 回 WG ⇒昨年度の成果と今年度の予定 ・第 25 回 WG ⇒木のある暮らしを推奨するための「動く木のおもちゃ 23 種」と「流域ものさし」の紹介と活用についての意見交換 ・第 26 回 WG～30 回 WG ⇒根羽村森林組合が主となって行う木づかいライブ・スギダラキャラバンにおける意見交換	・木づかいガイドラインは、根羽村森林組合がまとめ役となり情報収集が行われた。 ・木づかいライブ・スギダラキャラバンは名古屋市、安城市、豊田市等の啓発活動において、市民に好評を得たことが周知された。特に、安城市では今後、市内の公民館 11 箇所をカーボンオフセットを活用して巡回する予定である。また、豊田市で実施された「あそべるとよた DAYS」においては、プレイスメイキングの効果が実証された。 ・流域ものさし、どこでもシリーズについては、WG の意見を聞きながら木材の確保、製作を進めている。 ・小学生が自転車で源流から河口を走破した記録が報告され、流域の次の担い手（主に小学生）を対象としたイベントを検討している。

出発点「矢作川の恵みで生きる」の共有

検討の進め方

山村をとりまく社会背景の変遷と望ましい将来像

STEP1

過去と現在を
知　る

理解と情報共有を促進する

右に記載した事項について、具体的に「知る」機会を設け、情報共有を図る
→ 市民企画会議
→ 勉強会で対応

実現に向けた課題と解決手法

STEP2

未来像実現に向けた課題と解決手法を
考える

情報共有を踏まえ、まず「人の問題」をテーマに解決手法を検討
→ 市民会議
→ 地域部会で対応

STEP3

できることから活動を
実践する

	人と山村	森　林
高度経済成長前から後へ	●自給的経済、自立、自治、誇りがあった。 ●百業をやっていた。	●薪炭林施業が行われていた。 ●最上流域や額田地区ではスギ、ヒノキ人工林施業が行われていた。 ●藤岡・小原・旧豊田・岡崎にはハゲ山も多かった。
現代	●若者が中下流の都市へ流出した。 ●拡大造林によって広大な人工林が形成され、長期間管理し続ける必要があったが、その担い手がいなくなった。	●もともと林業地だったところでも、そうでないところでも、もうかるというもくろみと国策により、拡大造林（広葉樹からヒノキ、スギへ転換）を推進した。 ●国産材を流通させる仕組みが輸入木材に比べて整わず、国産材の価格が低下し、林業が業として成り立たなくなった。
近未来（放っておくとどうなるか）	●山村における若者の就業機会が乏しい。就業できても定着できない。 ●現代では、山村は過疎化、少子化、高齢化、核家族化が進行している。	●もともと林業地でなかった地域では、多くの所有者が素人山主で林業を知らない。 ●管理が行き届かないため過密化した水消費型森林や放置人工林からの土砂流出・崩壊の危険性が増加している。
	●限界集落、消滅する集落が増えていく。残された集落でも山村単独での自治や経済的な自立が困難となり、コミュニテイが崩壊する。 ●国、県、市町村ごと、部局ごとに目指す森林の姿がバラバラで、流域圏一体となった森林管理が行われていない。	●林業は利益を確保せざるを得ないことから、森林皆伐後の再造林の放棄が起こり、森林の水土保全機能が喪失する。 ●不適切な林道・作業道・搬出路が作られ、放置され、土砂が流出し、崩壊の危険性が高まる。
望ましい未来像	●流域圏にとって望ましい山村のあり方は、収入は多くなくても安定した若者の仕事があり、山村の資源を持続可能なやり方で利用しつつ、経済的に自立すること。 ●自然の恵みを利用できる知恵のある人が定住していること。	●流域圏にとって望ましい森林は、自然の力で持続する生態系と人による持続的な維持管理下に置かれる生態系が最適に配置され、多様な生物が生息し、木材や水などの恵みを中下流にもたらしてくれる森林。 ●木材生産を主目的として管理する森林と、水土保全機能の発揮を主目的として管理する森林を区分し、木材生産に適さない人工林を天然林に戻していく。

実現のための課題と解決手法

森林の適切な管理は、まず山村の再生（担い手作り）から！

当面の課題1　誰がやるか（人と地域の問題）

課題

●現金収入、仕事、医療、教育など、出発点に到達する以前の問題が山積。

解決手法（例）

●既に自発的に始まっている優れた取組を集めた「山村再生担い手づくり事例集」の策定やＩターンした若者のミーティングを通じ、山村再生の担い手作りを支援する具体的な方策を検討する。

●上下流をビジネスサイクルでつなぐ産業振興（流域フェアトレード）の推進（中下流都市中心部での上流生産物販売拠点の設置など）

役割分担

市民・学識経験者・行政が、対等な立場で、一体となって推進していく。

山村再生のために先ず"人づくり"が必要 そのうえで"森づくり"にも取り組む必要がある。

担い手づくり事例集イメージ

- 山村再生担い手づくり事例集
  - 成功事例1
  - 成功事例2
  - 失敗事例1
  - ……

当面の課題2　何をやるか（森の問題）

課題

●流域圏として統一性のある森林管理を行い、矢作川の森の恵みが中下流や海までいきとどくためのガイドラインが必要。

●データ不足・研究の遅れによって、「植林こそが正しい」といった誤解を正すことが必要。

解決手法（例）

●「矢作川流域圏の森づくり・木づかいガイドライン」の策定

●モデル林の設定とモニタリング
→ガイドラインの検証のため、土砂を流す森、節水型森林の手本を作る。

行政・学識経験者・市民が対等な立場で、一体となって策定

役割分担

市民・学識経験者・行政が、対等な立場で、一体となってガイドラインを策定し、モデル林を設計、施業、研究し、モニタリングを行っていく。

1.1　山村再生担い手づくり事例集

(1)　今年度の活動より分かったこと

①取材対象の拡大

◆今年度は、平成 25 年度、26 年度の手法（主に農村や海の担い手を対象とする）に加え天下杉、農村舞台アートプロジェクト、あすけ聞き書き隊といった文化的な担い手も対象とし、それらを含む合計 22 団体を取材した。

〈長野県〉: 2 団体
・飯伊森林組合平谷事業所（平谷村）　・天下杉（根羽村）
〈岐阜県〉: 1 団体
・夕立山森林塾（恵那市山岡町）
〈愛知県〉: 19 団体
・野外保育園とよた森のようちえん　森のたまご（旧豊田市）　・農村舞台アートプロジェクト（旧豊田市）
・稲武山里体験推進協議会（どんぐり工房）（豊田市稲武地区）　・ファーストハンド（豊田市稲武地区）
・老人福祉センターぬくもりの里（豊田市旭地区）　・有間竹林愛護会（豊田市旭地区）
・あさひ森の健康診断（豊田市旭地区）　・あさひ薪づくり研究会（豊田市旭地区）
・おいでん・さんそんセンター（豊田市足助地区）　・あすけ聞き書き隊（豊田市足助地区）
・山里センチメンツ（豊田市足助地区）　・しもやま再来るプロジェクト（豊田市下山地区）
・コレカラ商店（豊田市小原地区）　・岡森フォレスターズ（岡崎市額田地区）
・鳥川ホテル保存会（岡崎市額田地区）　・額田木の駅プロジェクト（岡崎市額田地区）
・日近太鼓（岡崎市額田地区）　・蒲郡市漁場環境保全協議会（蒲郡市）　・島を美しくする会（西尾市）

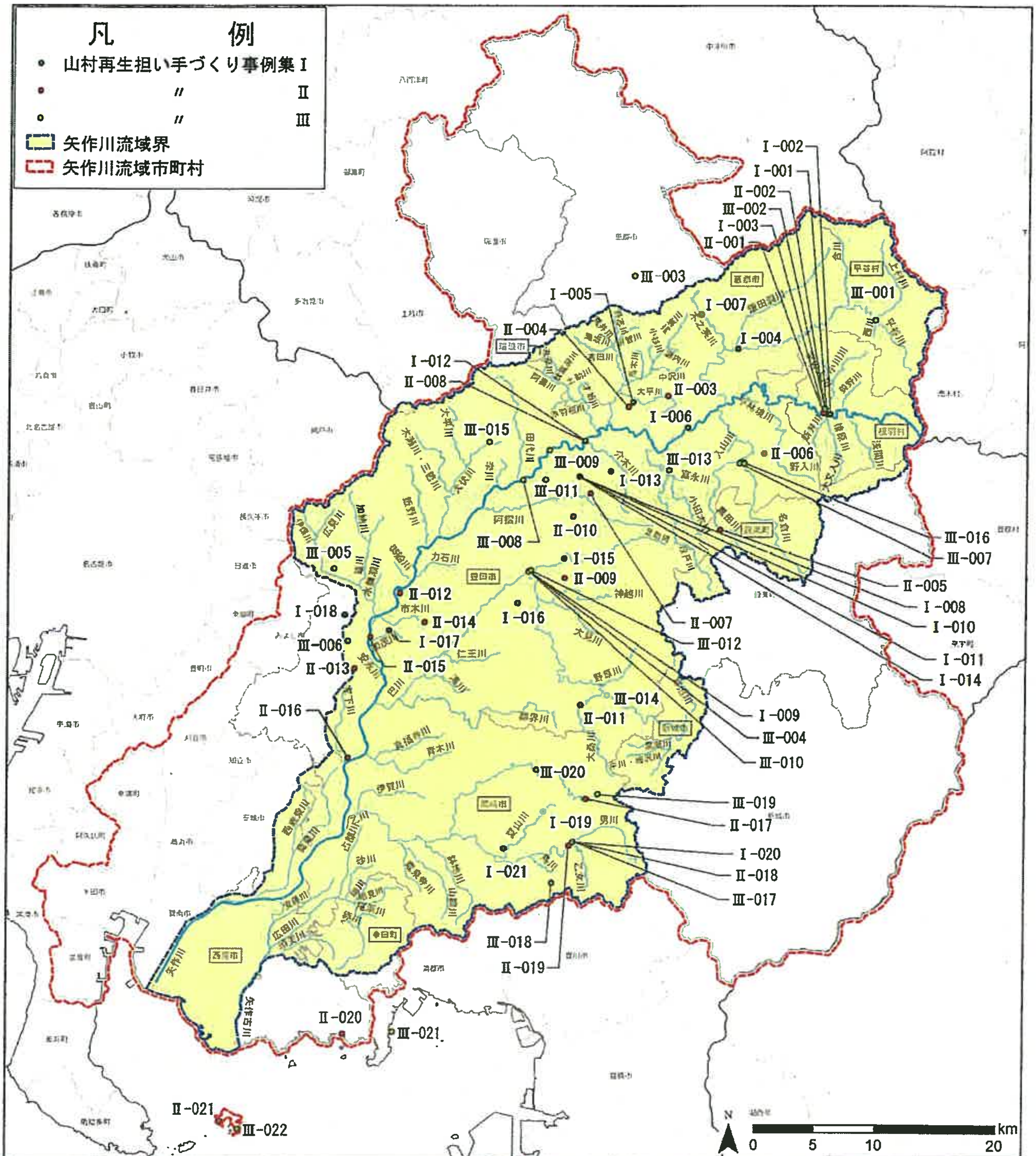
◆文化的な団体は、それ自体が生業ではないが、地域の活性化・住民のモチベーションの向上にとって重要な役割を担っていると考えられる。

天下杉による福祉施設での慰問の様子（下伊那郡売木村）

日近太鼓が主催する太鼓ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙの様子（岡崎市桜形町）

②活動の成果

◆過去の取材者が取材先になる等、事例集に関わる人の繋がりがさらに深まった。
◆大学の講義（体験実習）に山村担い手づくり事例集が活用された。
◆3 ヶ年に及ぶ山村再生担い手づくり事例集（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）の活動拠点について、マップの作成を行った（次頁参照）。



長野県下伊那郡平谷村		**愛知県豊田市**	
Ⅲ-001	飯伊森林組合平谷事務所	Ⅰ-008	矢作川水系森林ボランティア協議会
長野県下伊那郡根羽村		Ⅰ-009	とよた森林学校
Ⅰ-001	根羽村森林組合	Ⅰ-010	とよた森林学校OB会
Ⅰ-002	ねば杉っこ餅	Ⅰ-011	とよた都市農山村交流ネットワーク
Ⅰ-003	根羽村猟友会	Ⅰ-012	豊森なりわい塾
Ⅱ-001	木の駅ねばりん実行委員会	Ⅰ-013	株式会社 M-easy
Ⅱ-002	きくの会(菊の会)	Ⅰ-014	旭木の駅プロジェクト(実行委員会)
Ⅲ-002	天下杉	Ⅰ-015	千年持続学校
岐阜県恵那市		Ⅰ-016	おむすび通貨(一般社団法人物々交換局)
Ⅰ-004	恵南森林組合	Ⅰ-017	green maman
Ⅰ-005	早原農林(旧串原林業)	Ⅰ-018	農業生産法人 みどりの里
Ⅰ-006	NPO法人　奥矢作森林塾	Ⅱ-006	アンティマキ
Ⅰ-007	NPO法人 福寿の里自然倶楽部	Ⅱ-007	てくてく農園
Ⅱ-003	山のハム工房　ゴーバル	Ⅱ-008	あさひ若者会
Ⅱ-004	三宅林業	Ⅱ-009	あすけ里山ユースホステル
Ⅲ-003	夕立山森林塾	Ⅱ-010	新盛里山耕流塾
		Ⅱ-011	近藤しいたけ園
		Ⅱ-012	こいけやクリエイト

愛知県豊田市（続き）		**愛知県北設楽郡設楽町**	
Ⅱ-013	アグロ・ブエルタ	Ⅱ-005	たけうち牧場
Ⅱ-014	とよたプレイパークの会	**愛知県岡崎市**	
Ⅱ-015	NPO法人矢作川森林塾	Ⅰ-019	NPO法人中部猟踊会・三州マタギ屋
Ⅱ-016	矢作川水族館	Ⅰ-020	岡崎森林組合
Ⅲ-004	おいでん・さんそんセンター	Ⅰ-021	おおだの森保護事業者会(山留舞会)
Ⅲ-005	野外保育　とよた　森のたまご	Ⅱ-017	じさんじょの会
Ⅲ-006	農村舞台アートプロジェクト	Ⅱ-018	額田林業クラブ
Ⅲ-007	稲武山里体験推進協議会	Ⅱ-019	宮ザキ園
Ⅲ-008	老人福祉センターぬくもりの里	Ⅲ-017	岡森フォレスターズ
Ⅲ-009	有間竹林愛護会	Ⅲ-018	鳥川ホタル保存会
Ⅲ-010	あさひ森の健康診断	Ⅲ-019	額田木の駅プロジェクト
Ⅲ-011	あさひ薪づくり研究会	Ⅲ-020	日近太鼓
Ⅲ-012	あすけ聞き書き隊	**愛知県西尾市**	
Ⅲ-013	山里センチメンツ	Ⅱ-020	東幡豆漁業協同組合
Ⅲ-014	しもやま再来るプロジェクト	Ⅱ-021	佐久島Oyaoya cafeもんぺまるけ
Ⅲ-015	コレカラ商店	Ⅲ-022	島を美しくつくる会
Ⅲ-016	ファーストハンド	**愛知県蒲郡市**	
		Ⅲ-021	蒲郡市漁場環境保全協議会

Ⅰ：山村再生担い手づくり事例集Ⅰ(2013)、Ⅱ：山村再生担い手づくり事例集Ⅱ(2014)、Ⅲ：山村再生担い手づくり事例集Ⅲ(2015)

図　山村再生担い手づくり事例集マップ（仮称）の作成状況

(2) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針】

2013、2014 年度に引き続き、事例集の作成を行う。川や海の活動団体も取材対象とする。3 ヶ年の取材団体を地域や活動の種類によって検索し、取材内容を閲覧することができる地図を作成し、ホームページに掲載する。

≪進捗状況≫

今年度は新たに 22 団体の取材先が選定された。山以外の活動団体を取材対象とすることに加え、和太鼓や慰問活動といった文化的役割をもつ団体も取材対象に加えた。現在、事例集Ⅲの印刷段階となっている。また、前頁に示したように活動拠点を示した山村再生担い手づくり事例集マップ（仮）の作成が行われた。活動団体の取材内容は、地図上の団体名からリンクを設け、自由に閲覧できるものとなっている。

(3) 今後の課題

○山村再生担い手づくり事例集の活用や市民への普及

○山村再生担い手づくり事例集の効果の検証

1.2　山村ミーティング

(1)　今年度の活動より分かったこと

①イベントを実施するにあたっての情報共有・検討事項

【情報共有】

◆北海道中川町では第２回きこり祭りが行われ、目標とされたイベントの情報共有が図られた。

図　回覧された「中川町きこり祭」のポスター

【検討事項】

◆イベントの計画や実施するための資金の見通しが困難である。

◆矢作川流域圏は対象範囲が広いことに加え、林業従事者数（団体数）が多すぎるため、募集方法や情報の集約に困難な点が多い。

◆林業従事者の中においても、ベテランと若者では価値観が異なることや肉体労働に体力を奪われ、イベントの計画に充てる時間がない。

◆林業を生業としない森林ボランティアは、主に楽しく作業をすることや汗をかくことにやり甲斐を感じる人が多いため、林業従事者との価値観共有が難しい。

②活動の成果

◆情報共有により、きこり祭りではなく、これに代わる流域のイベントの模索を始めた。例えば、山村再生担い手づくり事例集に関わった人々でつくる流域（山村）文化祭の実施や山村と漁村の子どもたちの交換留学等、山村再生担い手づくり事例集や木づかいといった別のテーマと連携する代替案が出された。

◆林業従事者に対象を絞らないイベントを開催する方向で検討が進められた。

◆豊田足助地区のもみじ祭りを山村ミーティングに活用できないかという意見が挙がった。

(2)　今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針案】

根羽、恵那、豊田、額田で稼働する木の駅と連携しながら、新たに「矢作川きこり祭り（仮称）」の準備に入る。長老によるベテランの技、Ｉターンによる若者のパワー、森林ボランティアの心意気を思う存分発揮できる「お祭り」で、流域のきこりが集い、汗を流し、杯を酌み交わし、語り合う場をつくる。

≪進捗状況≫

関係者および WG でイベント開催に向けた課題を検討した。そのうえで、きこり祭りに代わるイベントを検討している。

(3)　今後の課題

○きこり祭りに代わるイベントの検討

○山村担い手づくり事例集や木づかい等、他のテーマとの連携強化

1.3 森づくりガイドライン

(1) 今年度の活動より分かったこと

①情報収集と共有・意見交換

◆川や海に配慮した木材生産を目指すモデル林の設定に向け、情報収集を行った。

◆森づくりに関する事例収集のため、中部森林管理局をはじめ流域圏市町村に情報提供を依頼した。

②活動の成果

◆豊田市では、平成19年度に豊田市100年の森づくり構想が策定され、間伐推進プロジェクト等の6つの事業を行っている。今年度は、策定後10年の課題を受けて、新たな森づくりに関する5事業について紹介と意見交換が行われた。

ⅰ）地域材加工流通体制整備（中核製材工場の誘致）
ⅱ）水源かん養機能モニタリング調査（試験林の設定）
ⅲ）水道水源林間伐促進費補助金
ⅳ）森づくり構想リニューアルプロジェクト（生物多様性に配慮した森づくり等）
　・人工林現況調査業務、優良事例調査
ⅴ）とよた森の森林学校開校10周年記念イベント

◆岡崎市では、国の水循環基本法（平成26年7月施行）に先立って、岡崎市水を守り育む条例」が平成20年4月に施行されている。その条例の下では水環想像プランが策定されており、その諮問機関として水循環推進協議会が設置される等、森林の水源涵養機能を評価するうえで、国の先進事例を学び、意見交換を行った。

◆矢作川流域圏への近自然森づくりの導入を検討するために、近自然森づくりを実践している「荒山林業」の視察を行った。

荒山林業所有林にて説明を受ける部会員

97年生のカラマツと広葉樹の混交林

◆下表に示す流域の関係団体より間伐面積の推移および森づくりの事例の回答があった。流域市町村における間伐面積では、2010年度以降減少がみられ、2014年度には2010年度の半分程度に減少した。また、特徴的な森づくり等の事例では、長野県下伊那地方事務所、恵那市、安城市より情報提供があったが、矢作川流域圏には他にも特徴的な森林と巨木・並木があるものと推察される。そこで、WGにおいても部会員の情報提供を募ることにした。マップ上にこれらの地点を配置すると、矢作川流域圏の特徴的な巨木・並木は上流域の山間部だけでなく、安城市や西尾市の下流域にも分布することがわかった。

表　森づくりに関する事例等の提供依頼先一覧

（敬称略）

依頼先	
中部森林管理局	森林整備課長
愛知県	西三河農林水産事務所長
	豊田加茂農林水産事務所長
岐阜県	恵那農林事務所長
長野県	下伊那地方事務所長
平谷村長	小池　正充
根羽村長	大久保　憲一
恵那市長	可知　義明
豊田市長	太田　稔彦
岡崎市長	内田　康宏
西尾市長	榊原　康正
安城市長	神谷　学
幸田町長	大須賀　一誠
碧南市長	禰宜田　政信

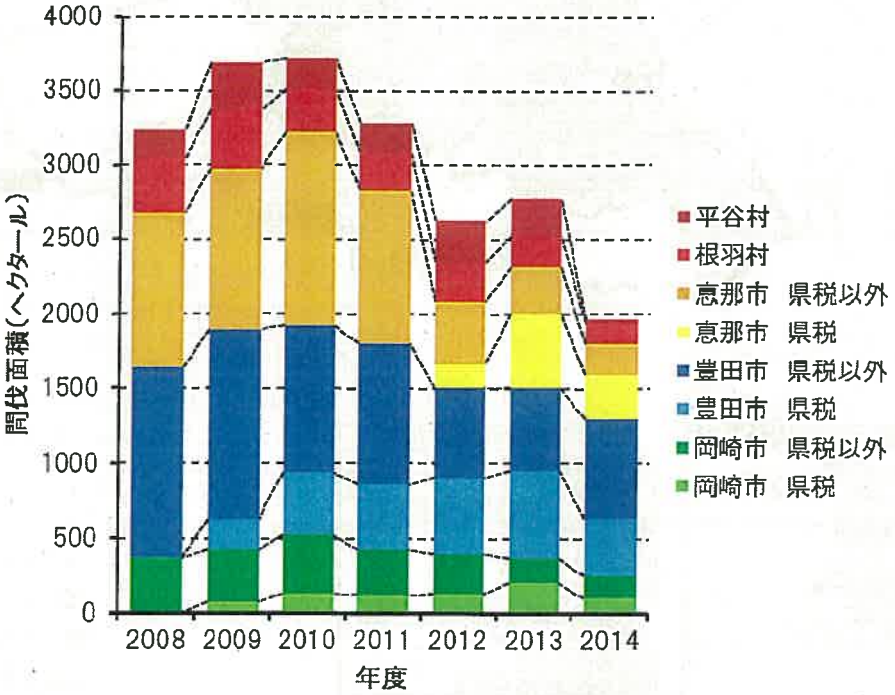
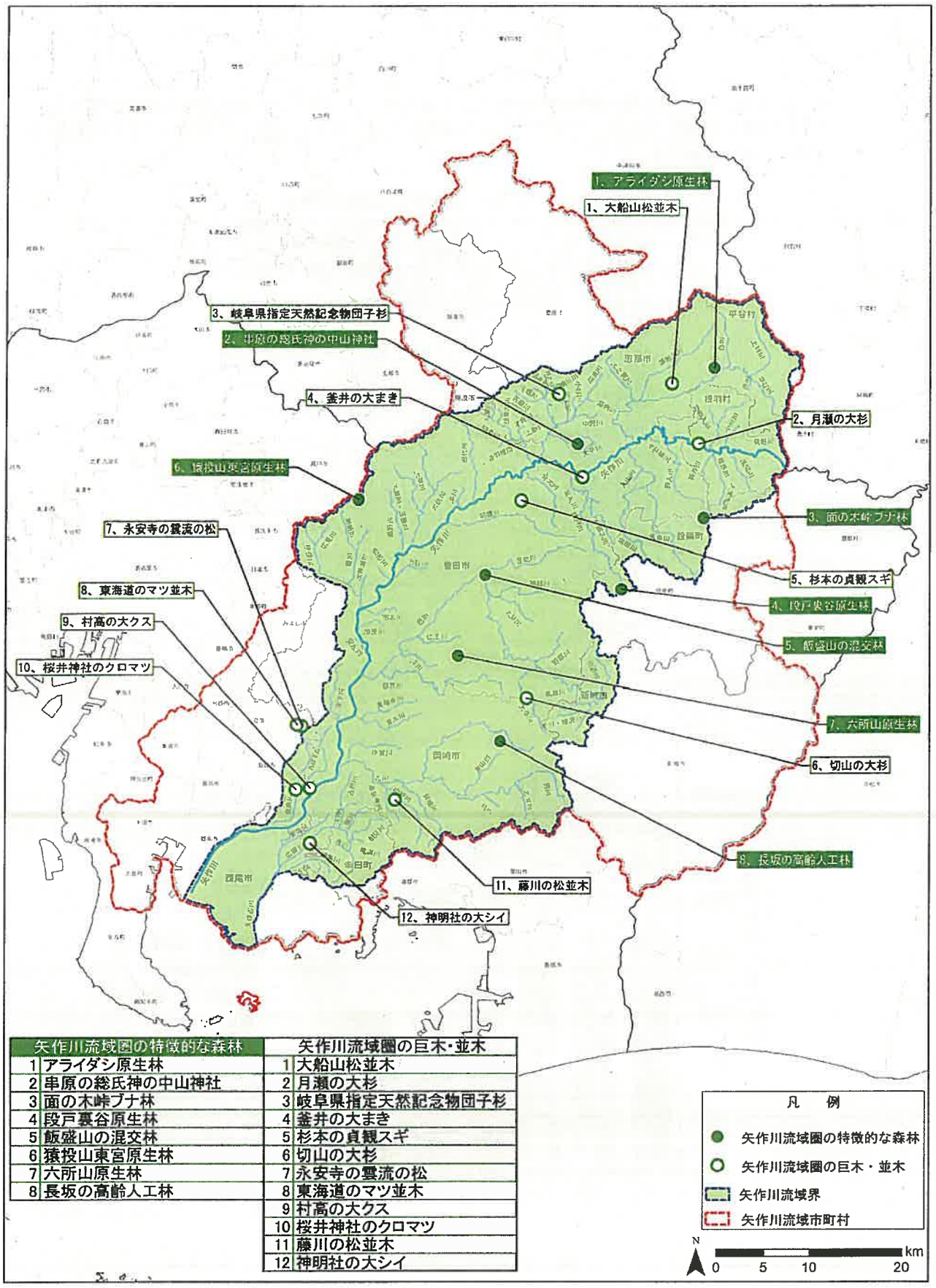


図　流域市村の間伐実績の推移



矢作川流域圏の特徴的な森林	
1	アライダシ原生林
2	串原の総氏神の中山神社
3	面の木峠ブナ林
4	段戸裏谷原生林
5	飯盛山の混交林
6	猿投山東宮原生林
7	六所山原生林
8	長坂の高齢人工林

矢作川流域圏の巨木・並木	
1	大船山松並木
2	月瀬の大杉
3	岐阜県指定天然記念物団子杉
4	釜井の大まき
5	杉本の貞観スギ
6	切山の大杉
7	永安寺の雲流の松
8	東海道のマツ並木
9	村高の大クス
10	桜井神社のクロマツ
11	藤川の松並木
12	神明社の大シイ

図　矢作川流域圏に特徴的な森林と巨木・並木の所在地

(2) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針 1】

流域圏の森の統計的情報、代表的、特徴的な森や樹木のリストを地図上に示した資料を作成し、森づくりにおける現状と課題、解決手法を川部会、海部会へ説明し、理解していただくための基礎資料とすると同時に、森林所有者、行政、森林組合、市民の情報共有のため活用していただく。

≪進捗状況≫

森づくりに関する事例等の提供依頼を中部森林管理局、流域県市町村に行い、回答を得た。代表的な森や樹木の情報については、さらにより多くの箇所を表現するため情報提供を募ることとした。現在、情報収集と地図上へのプロットがおおよそ終わった状況である。

【活動方針 2】

今後、矢作川流域圏の川や海に配慮した木材生産を目指すモデル林、スギ・ヒノキ人工林を針広混交林や広葉樹へ転換していくモデル林、森林の水源かん養機能を科学的に明らかにすることを目指した試験林等について、地域の 4 地区にそれぞれ設定していくことを検討する。

≪進捗状況≫

豊田市の森づくりに関する新規事業では、水源かん養機能モニタリング調査が含まれ、来年度初めには試験林の設定が予定されている。また、岡崎市においては、森林の水源かん養機能の発揮について再構築することを目的として、「緑のダム部会」が開催されている。これら矢作川流域圏の都市の取り組みが報告され、意見交換が行われた。

欧州型近自然森づくりに関しては、国内で最も近いと評価された「荒山林業」を有志によって視察を行い、矢作川流域圏内への展開について検討した。

(3) 今後の課題

○流域自治体の森づくりに関する最新の進捗把握および自治体への意見発信。

○流域の森づくり（矢作川流域圏に特徴的な森林等）の集約

○構築したデータの公表および周知方法の検討

1.4 木づかいガイドライン

(1) 今年度の活動より分かったこと

①木づかいの推進

◆根羽村森林組合がまとめ役となり、流域圏への木づかい推進を行った。

表　木づかいガイドライン作成の取組み整理表

区分	主体者	内容
木づかいガイドライン	市民 行政 業界 研究者	「さあ～しよう」提案
木づかいライブ・スギダラキャラバン	根羽村森林組合	スギダラキャラバンの実施（次頁参照） スギダラ天竜支部との連携 木の魅力と楽しさを「森の民」が伝える 木製品の受注販売 木づかい推進の取り組みに対する公的資金による支援(公園等の木づかい推進拠点)
様々な木のある暮らしのアイテム提案	根羽村森林組合	どこでもシリーズ → 水平展開から垂直展開へ 動く木のおもちゃ → 木の魅力に釘付け・木の魅力への導き 流域ものさし → 全国共通アイテム化・私の流域甲子園 根羽物置 → 手が届く価格・実用的・自由設計・自分で建てられる 安曇野市　中房温泉　貸切風呂「根羽の湯」 → 露天風呂交流・青少年の動機付
矢作川ディズ、木づかい市民活動、フェアトレード、流域連携	あそべるとよたプロジェクト 流域フェス 豊田市 市民 東幡豆漁業組合と根羽村森林組合 安城市と根羽村森林組合 中房温泉と根羽村森林組合 信州大学等と根羽村・根羽村森林組合 豊田市製材工場と根羽村森林組合 流域内工務店と根羽村森林組合	市民提案・参加型プレイスメイキングによる流域連携の拠点創設 流域連携イベント → 市民活動に向けたキックオフ 川会議による流域連携 私の流域物語・スギダラキャラバンへの参加による木の魅力の気づき 漁礁及び憩いの浜辺プレイスメイキング(場所の力づくり) 木材利用指針・公的資金支援・カーボンオフセットを原資とした木づかい推進活動 愛知県小中学生を対象とした温泉・山岳・森林・木づかいファンづくり 流域資源活用・持続可能な流域づくりのための流域内知の集積ツアー お互いに補完しあう矢作川流域材の生産・流通 木づかい推進活動と連携した「子供の時から始める木の家づくり物語」 テーマ性・デザイン性・遊び心満載の二地域居住者向けコンパクト住宅

表　木づかいライブ・スギダラキャラバンの実績と予定

NO	イベント名	開催日	場所	備考
1	ほんわか里山祭り	3/22	豊田市 笹戸温泉	
2	オールアイシン家族祭り	5/17	刈谷市 アイシン高丘工場	
3	ワイルドツリーコラボイベント	5/24	伊那市 旧市役所広場	
4	ＴＡＳＫＩサミット	7/7	根羽村	
5	豊田市Ｔフェイスアウトドアフェスタ	7/18	豊田市 Ｔフェイス	
6	アイシン夏の陣	7/25	根羽村	
7	安城市デンパーク無料開放デー	7/25	安城市 デンパーク	
8	わくわくネイチャースクール	7/30.31	根羽村	
9	全国水源サミット	9/4.5.6	根羽村	
10	信州大学農学部カラマツ祭	9/18.19.20	南箕輪村	
11	足助夢里まつり	9～10 月	豊田市	
12	建築総合展	10/1.2.3	名古屋市 吹上ホール	
13	あそべるとよたプロジェクト	10/19～11/1.2.3	豊田市 駅前広場	T-フェイス
14	エコットイベント	10/31	根羽村	
15	豊田市浄水北小木製遊具伐採調達	11/6	豊田市	
16	アイシン秋の陣	11/7	根羽村	
17	メッセナゴヤ 2015	11/4.5.6.7	名古屋市 メッセナゴヤ	
18	飯田合庁木づかい推進フェア	11/16～20	飯田市	
19	とよた森林学校　杉の魅力に迫る	2/28（予定）	根羽村	
20	ほんわか里山交流まつり	3/20（予定）	豊田市	

②活動の成果
＜様々な木のある暮らしのアイテム提案＞

◆動く木のおもちゃを WG で体験するとともに、興味を引くアイテムを選抜した。

図　動くおもちゃを体験し評価を行う部会員

◆安城市や豊田市の木づかい推進においては、動く木のおもちゃが高く評価され、安城市ではカーボンオフセットの活用した市内全域への拡大が予定されている。また、豊田市では殺風景な空間にプレイスメイキングを行うことで集客力が大幅にアップすることがわかり、WG において周知された。

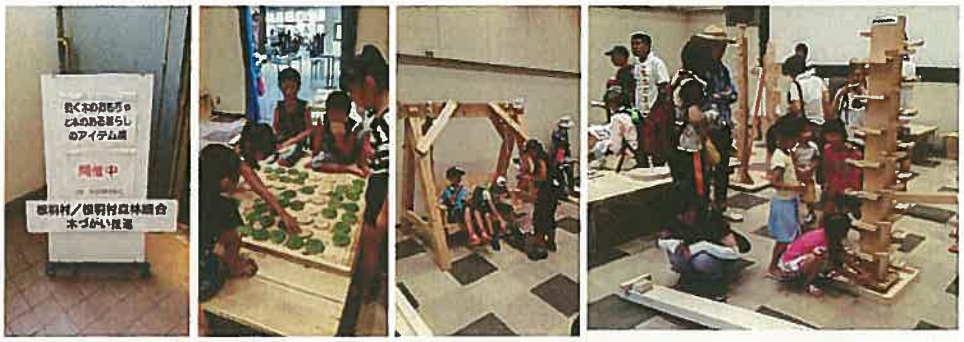


図　「動く木のおもちゃと木のある暮らしのアイテム展（安城市デンパーク無料開放デー）」の様子

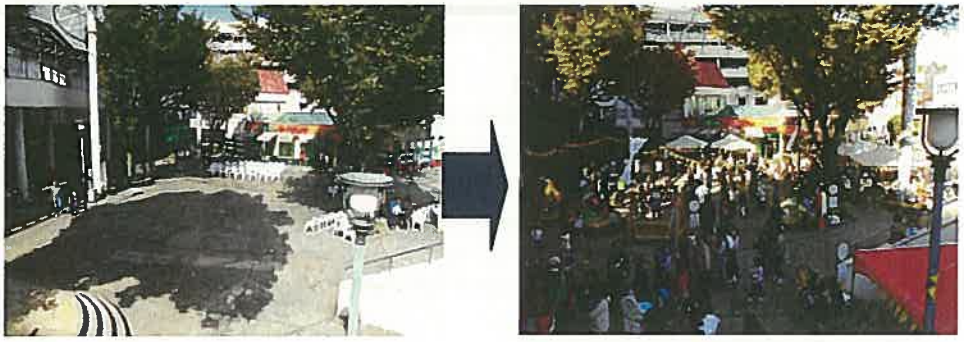


図　プレイスメイキングの効果（豊田市あそべるとよたプロジェクト）

◆流域ものさしの作成においては、WGの中より木材の提供の申し出があったほか、用いる樹種についての意見交換が行われた。また、製作に関しては、山村再生担い手づくり事例集で取材を行ったファーストハンド等に依頼する等、山村再生担い手づくり事例集の取材で築かれた人脈を活用する意見が出された。

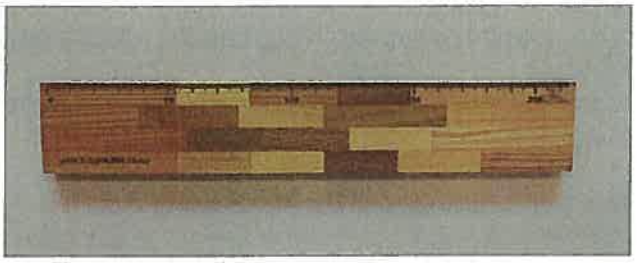


図　流域ものさしの試作品

◆どこでもシリーズに代表される「根羽物置」においては、一般市民に好評であったことが周知され、販売後のアフターケアの重要性が話し合われた。
◆中房温泉に建設された根羽スギによる温泉施設は、有志による見学会が実施され、流域材の活用事例を学んだ。

図　根羽スギを用いて造られた根羽物置（左）と家族風呂（右）

＜矢作川ディス・木づかい市民活動・フェアトレード・流域連携＞

◆根羽村では、小学生が源流から河口まで自転車で走破したことが周知された。WGでは、下流の小学生を対象に流域を自転車で下るイベントを実施してみたいという意見が出た。また、山村再生担い手づくり事例集の取材先に協力を得てはどうかとの意見もあがった。次年度以降のWGにおいて部会員が試験的に体験し、その後、本格的な実施に向けた検討を行う予定である。

図　矢作川を走破した小学生の発表資料

(2) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針 1】
平成 26 年度に作成した提案型「木づかいガイドライン　さあ～しよう」の原案を基本に、各提案項目について提案が可能なものから順次提案者へ原稿を依頼して作成業務を行う。
【活動方針 2】
「木づかいガイドライン」は、こうした方法で順次提案者に作成依頼を図りながら、その内容を増やしていく。
【活動方針 3】
並行して開催する「木づかいライブ・スギダラキャラバン」は、「木づかい」推進のリーダー役を務める根羽村森林組合が、里山市民グループ・地元工務店、地域の団体等と連携しながら、地域内のイベントとジョイントを図り、地域に活力を生み出す元気な人の輪を育成する。
【活動方針 4】
「木づかいライブ・スギダラキャラバン」の開催を通して、「森づくりガイドライン・木づかいガイドライン」等の森づくりと木づかい情報を発信して、矢作川流域の森林資源・木づかい推進活動を紹介しながら、森や木づかいのファンを増やしていく。
【活動方針 5】
同時に、木育アイテムや「どこでもシリーズ」等スギダラ商品の開発を図りながら、矢作の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を広く市民に提供して、その普及と定着を図る。
【活動方針 6】
こうした楽しい「木のある暮らし」の普及を基本として、市民自らのアイデアと行動身近なあらゆる生活空間をスギダラケにする市民活動を生み出し、「人生を楽しみ愛する家族と共に幸せに暮らす。森や木とそれぞれを育む矢作川の流れと共に生きるライススタイル　矢作川ディズ」を確立する。
≪進捗状況≫
根羽村森林組合がまとめ役となって、情報収集を進めている。木づかいライブ・スギダラキャラバンについては、名古屋市・安城市・豊田市において情報を発信した。名古屋市ではメッセナゴヤ 2015 において、どこでもシリーズ「根羽物置」の展示を行い、購入希望者が出る等、木づかい推進に取り組んだ。安城市や豊田市においては「動く木のおもちゃ」を市民に実体験してもらい、流域材を使った遊び場を提供した。特に、「あそべるとよた DAYS」においては、木づかいによるプレイスメイキングを行うことで集客力アップが実証された。
現在、流域ものさしの作成に向けた、木材の確保およびデザイン・製作手法について検討を行っている。

(3) 今後の課題

○山村再生担い手づくり事例集、山村ミーティングとの連携強化

○WG における展開方法、役割分担の検討

矢作川流域圏懇談会通信

HZ7 山部会編 vol. 1

発　行　日：平成 27 年６月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第２４回山部会WGを開催しました！

５月１５日（金曜日）に第 24 回山部会WGが豊田市森林組合の新庁舎にて開催されました。今回の WG では、昨年度の活動の報告と今後の活動方針を話し合いました。また、長崎大学の太田貴大准教授による「矢作川流域における生態系サービス供給―受益関係の地図化について」の特別講演とディスカッションを行いました。

日　時：平成 27 年５月１５日（金）13 時 30 分～17 時 00 分
場　所：豊田市森林組合新庁舎　第２第３会議室
参加者：17 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1．山村再生担い手づくり事例集について

昨年度は、山村で活動する 21 の団体へ矢作川流域懇談会として取材を行い事例集としてとりまとめました。取材者と取材先の新しい交流が生まれ、新しいイベントや小商い、資金集め等の取組に発展しました。また、川・海部会との交流に寄与することができました。

今年度も 20 以上の活動団体（川・海の団体を含む）を目標に事例集の作成を進めます。

2．山村ミーティングについて

山村ミーティングは、矢作川流域で活動する個人・団体が困った時に話し合え、様々な情報を共有可能とする仕組みづくりを行うことを目的に進めています。

林業で言えば、プロから一般市民までが語り合える場所を木の駅等で行えるよう、呼びかけを行っていきたいと思っています。

3．矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

豊田市では、「豊田市森づくり条例」に基づき、「豊田市 100 年の森づくり構想」を平成 19 年に策定しました。この構想の実現に向け、間伐推進プロジェクト等の６つを柱とする具体的施策を行っており、これとは別に以下の新規事業を行います。

①地域材加工流通体制整備　②水源かん養機能モニタリング調査　③水道水源林間伐促進費補助金
④森づくり構想リニューアルプロジェクト・人工林現況調査業務、優良事例調査
⑤とよた森林学校開校 10 周年イベント

4．矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

昨年度は、「さあ～しよう」という提案型の「木づかいガイドライン」にするため、提案者に対し原稿依頼を行いました。同時に、根羽村森林組合をリーダー役とする「スギダラ矢作川流域支部」を発足させ、流域内のイベント等とジョイントさせた「木づかいライブ・スギダラキャラバン」をスタートさせ、流域の方々が連携して地域の生活空間を自らのアイデアと行動でスギダラケにしていこうという共通認識を持ちました。

今年度は、昨年度の活動を拡大し、森や木づかいのファンを増やしていきます。

5．特別講演「矢作川流域における生態系サービス供給―受益関係の地図化について」を実施し、ディスカッションを行いました

現在、長崎大学の水産・環境科学総合研究科に在籍していますが、もともと名古屋市出身です。学生時代には、豊田市足助の森林を対象に社会科学的な面からの調査をしていました。それ以来、豊田市の森林に関わっています。
現在は、生態系サービスを研究テーマとしており、生態系サービスの評価、政策の中でどう活用するかについて矢作川を対象に考えてみたいと思います。

◆話し合いでの主な意見 （・意見　➢回答）

●山村再生担い手づくり事例集について

- 関連団体への取材を始めて今年度で３年目であり、今年度で事例集を完結させる。この取材によって山川海の交流に貢献できたと考えており、今年の９月には東幡豆漁業協同組合と交流イベントを考えている。（洲崎）
- 根羽村で新たな取材候補を探してみる。（南木）
- 事例集Ⅰおよび Ⅱ に掲載済で取材先に挙がっている候補は、他に候補が見つからない場合の対象とする。（洲崎）
- 串原農林についても、他に良い取材候補がない場合の対象にするということにしてはどうか。（丹羽）
- 取材先のマップを作ってはどうか。（蔵治、洲崎）
  - ➢ 事例集に関わる場所を GIS にてマップ化し、HP に掲載することも可能である。住所あるいは紙媒体の地図などで位置を特定してマップ化し、HP 上に掲載するときは、個人情報に配慮した表現を検討する。（事務局）

●山村ミーティングについて

- 流域全体に木の駅が拡がってほしい。流域全体の森の健康診断ができたのは矢作川だけである。（丹羽）
- 矢作川「川会議」が今年１５回目になる。流域を通じて川をよくしたい、という考えのもとに「山川海流域フェスティバル」みたいなものを開きたいという話が出ている。川べりの、いい雰囲気の場所で開催することを考えている。シンポジウムではなく体験型の楽しいイベントにしたい。（洲崎）

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

- 施策の持続性はどうなのか。新たな担い手は確保できるのか。（丹羽）
  - ➢ 豊田市も構想リニューアルを考えている。３年かけて新しくしていく、というねらいで考えている。海外を含めていろいろな事例を見ていく予定である（鈴木）
- 山間地で生まれ育った人が担い手として育たず離れていく。それは作業賃賃金が確保できず、木材価格も安いから、家族を養えないことも原因にある。（林）
- 最上川流域全体と広島の安佐南で森の健康診断をやりたいという話が出ている。その話が出たのもそこで災害があったからである。矢作川モデルを「日本を救うモデル」として広めていくという意識で活動すべきである。（丹羽）

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- スギダラキャラバンの予定の一つとして、TASKI（中部先進５都市環境）サミットを根羽村にて開催してもらえることになった。また、安城市の働きかけによって安城市でいくつかイベントを行う予定である。（今村）
- 燕岳(つばくろだけ)下に根羽の木を使った家族風呂を作って根羽をアピールしている。活動の中で曲げわっぱのお弁当作りが第 13 回 SBC 学校科学大賞優秀賞を受賞した。また、根羽の木で木の丸太皿を作り、KIHACHI で使用してもらっている。他に、根羽の木を使ったおもちゃを作るなどをしている。子供のころから木を使うことで木を好きになるよう意識付けし、教育していこうと考えている。（今村）

●講演会：矢作川流域における生態系サービス供給ー受益関係の地図化について

生態系サービスを森林にどう使い、それを政策に活用する方法を表現したいと考えています。これまでは特定の場所だけが地図化されていましたが、広く供給地と受益地に関する科学的な研究をしたいと考えました。研究として市民が住民税などで支払っている水源かん養などの受益税を、受益者が受益した分だけ払い、しかも供給元へその分を渡す税の仕組みをつくることを目的としています。

- たとえば、洪水がよくおこる地域の人たちが応益者となるが、弱者ともいえるそういった人々が受益税としてより高い額を払うというリスクを負うことになるのは、国民全体の平等性がなくなるのではないか。（蔵治）
- 鳥についてアメリカのポテンシャルマップを参考に試行しているが、アメリカのような広いところではある程度正解がでるが、愛知県だと正解になる以上に、不正解が多くなる。地勢が違う国のモデルで検討するのは難しいのではないか。（高橋）
- コンセンサスのとれた「良い森」のモデルを作り、それを目指して人が森を作っていくという方法もあるのではないか。（今村）

今後のスケジュール（予定）と情報提供

次回の山部会 WG は、６月 11 日（木）根羽村にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野

TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100

＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol. 2

発　行　日：平成 27 年６月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 25 回山部会WGを開催しました！

６月 11 日（木曜日）に第 25 回山部会WGが根羽村しゃくなげホールにて開催されました。今回の WG では、山村再生担い手づくり、山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインについて、今年度の活動の進捗状況と課題について話し合いました。

日　時：平成 27 年６月 11 日（木）13 時 30 分～16 時 30 分
場　所：根羽村老人福祉施設しゃくなげホール
参加者：13 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1．山村再生担い手づくり事例集について

今年は、山村再生担い手づくり事例集の３年目であり完結の年です。それに向けて、今回は、前回会議で話題となった流域マップについて、山村再生担い手づくり事例集の取材団体の「活動拠点」「問い合わせ場所」を地図にまとめました。また、今年度の取材先（２０団体を目標）も検討中です。そこで、今回は以下の内容を議論し、今後の活動に活かしたいと思います。

①山村再生担い手づくり事例集に関する流域マップの表現（表示）方法
　→活動拠点のみ、問い合わせ住所のみ、活動拠点＋問い合わせ住所　など
②山村再生担い手づくり事例集の取材先の検討
　→新たな活動団体の開拓（文化的活動団体に対する取材拡大）　など

2．山村ミーティングについて

現在、山川海流域フェスティバルの開催ができるよう検討を進めています。フェスティバル目的は都市や田舎の子どもにかっこいい木こりの姿を見せて興味を引きたいのが目的ですが、単なるプロの競争となっては面白くならないと思います。プロの審査基準、素人の審査基準をそれぞれつくり、競争ができればなと思います。今月中に、素人の審査基準を関係者で検討し、冬までに関係者でフェスティバルの実験をしてみたいと思います。

3．矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドライン作成の活動に関し、矢作川にも応用可能と思われる事例と６月 28 日に開催されるシンポジウムの紹介をいたします。また、流域の森づくりの活動状況について、流域市町村に文書での聞き取りを開始しました。中でも、近自然森づくりについては、矢作川流域圏にも取り入れることができるか検討したいと思います。

①神奈川県では源流域の活性化を目指した流域通行手形の活用事例
②スイスで取り入れられている近自然森づくりについてのシンポジウムの紹介
③矢作川流域の森づくりに関する事例等の提供依頼(流域の自治体及び中部森林管理局)

4．矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

「スギダラ商品の開発を図りながら、矢作川の流域材を活用した楽しい「木のある暮らし」を広く市民に提案して、その普及と定着を図る」という 27 年度の活動方針の５番目の具体的取り組み事例として、小学生やファミリー向けの「動く木のおもちゃ」を２３種類考案しました。どのおもちゃが良いか本 WG で選んでいただきます。また、「流域ものさし」について、天竜川の流域ものさしを参考に、どんな形状・使い方すべきか?長さはどれくらいが適当か？について検討を進めていきます。

◆話し合いでの主な意見 （・意見　➢回答）

●山村再生担い手づくり事例集について

＜山村再生担い手事例集マップ（仮称）について＞

- 時間が経って情報が変わる場合はどうするか。（洲崎）
  - ➢ 先ずは○○時点ということで確定したもので良いのではないか。（丹羽）
  - ➢ 過去３年分の情報を、１２月末くらいまでに確定し、年度末までに国土交通省のホームページにアップする。

＜今年度の取材先について＞

- 引き続き皆さんからの取材先候補団体を募集中なので、心当たりなどかあればお願いしたい。（洲崎）
- 取材先はやはり豊田が多い。周辺部がないので、平谷村に一つ点が入るようにしてみたいと思う。（今村）
- 流域圏が少しでも含まれれば、自治体すべてが入ってしまう。瑞浪などはそうである。（丹羽）
  - ➢ 活動範囲が含まれていれば本部は外でももちろん良いと思われる。（蔵治）

●山村ミーティングについて

- 山川海流域フェスティバルの話を進めている最中で、冬前までに身内で実験を行いたい。（丹羽）
- 山と川と海を結びつけるようなキャラバン的なお互いを知れるものが大切で、特に地域資源で生きようとしている生業でやっている人たちを結びつけるようなキャラバンも行ってみてはどうか。（今村）
- 大人が流域圏流域圏と言っていても仕方なく、若い人をターゲットとしながらも流域の産業（第一次産業）についてお互いに知る必要があるのではないか。（山本）
- 山川海流域フェスティバルというのは、かっこいい海の男、かっこいい山の男、かっこいい百姓などが集う場所というイメージで、都会の子や田舎の子たちにそれをみせるのでないと意味がないと思う。（丹羽）
- フェスティバルが火付け役となり、キャラバンで実体験ができるとよい。（山本）
- それぞれの実行委員会が連携しながら準備を進めていくとよい。（洲崎）

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

＜近自然森づくりについて＞

- スイスは日本と同じで単一樹種の一斉林、林業が立ち行かない、人件費が世界一高い、補助金がないという悪条件の中にあるが、今は収益をあげる林業をしている。それは、多種多層の混交林、陽光林というのをモットーとしており、なるべくたくさんの種類の林にすることで、木材の流行・移り変わりに対応できるものにしている。木造建築と木質バイオマス（ウッドチップ）を使って一つの集落がまかなえるようなシステムを構築している。フォレスターは森づくりから販売までの徹底的な専門教育を受けている。森づくりは人づくりであるということを徹底している。このような方法や教育を日本に取り入れられないか。（洲崎）
- 森づくりガイドラインの立場として、矢作川流域でもキャッチフレーズが欲しい。近自然森づくりは矢作川流域でも活用できそうか。（蔵治）
  - ➢ 大いに活用できると思う。ある程度理解が進んだら、勉強会をしたい。（洲崎）
- 矢作川の場合は、近自然という概念が、すでに河川で定着しているため受け入れられやすい。２０年先を見据えて矢作川をモデルにできないだろうか。（蔵治）

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

＜流域ものさしについて＞

- あくまで、ものさしとして使うのか。（洲崎）
  - ➢ 流域の概念を考える時にものさしとするのがわかりやすい。（今村）
- これは売り物にするのか、記念品とするのか。
  - ➢ 今の段階では小中学生の体験で作ってもらおうと考えている。（今村）
- 自分の経験を入れても良いと思う。矢作川流域の人が皆持っていて話ができると面白い。（今村）
- フランスの村は意識的に子供に体験させている。田舎の学校が都会の真似をして、その結果子供が誇りを持てなくていなくなってしまう。子供の頃に誇りが持てれば出ていかない。または、出て行っても戻ってくる。今はそういう学生が増えている。この活動はとても良いと思う。（山本）

今後のスケジュール（予定）と情報提供

次回の山部会WGは、７月２４日（金）～２５日（土）恵那市にて開催します。

◆お問合せ◆
矢作川流域圏懇談会事務局
〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100
＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol.3

発　行　日：平成 27 年８月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 26 回山部会WGを開催しました！

7 月 24 日（金曜日）に第 26 回山部会WGが奥矢作レクリエーションセンターにて開催されました。今回の WG では、山村再生担い手づくり、山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関する、進捗状況と今後の進め方について話し合いました。

日　時：平成 27 年 7 月 24 日（金）13 時 00 分～16 時 00 分
場　所：奥矢作レクリエーションセンター（大会議室）
参加者：13 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1．山村再生担い手づくり事例集について

今年は、山村再生担い手づくり事例集作成の３年目であり完結の年です。そこで、今回は以下の内容を議論し、今後の活動につなげたいと思います。

①取材先の決定について
→おいでん・さんそんセンターからも情報提供があり、現時点で 20 を超える団体が候補となっています。本日は取材候補ついて、さらに精査を行い、取材先を決定したいと思います。

②事例集マップ（仮称）の確認について
→配布の事例集マップ（仮称）について、出席者で確認を行います。

2．山村ミーティングについて

現在、山川海流域フェスティバルの開催ができるよう検討を進めています。現在、以下の２つの課題に対し検討を進めていますが、皆さんのご意見をいただければと思います。

①森林ボランティアや素人山主の見せ方について
→都会・流域の市民に楽しそうな仕事だと思える見せ方が課題となっています。

②流域のプロの募集方法について
→目標の技術を競い合う明確なものであるが、流域のプロの募集方法が課題となっています。

3．矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインに関連して、以下の２点を報告します。皆さんのご意見をお願いします。

①森づくりに関する事例等の提供依頼(流域の自治体及び中部森林管理局)について
→中部森林管理局、岐阜県、岡崎市、西尾市、安城市、碧南市からは回答をいただいており、岡崎市と恵那市の間伐面積は、過去最低となっています。

②欧州型森林管理者研修 in 奈良の参加報告について
→欧州型の森林管理は、人材を育てるところにウエイトがあります。矢作川流域の森林管理への適用についても、参考にできる部分はあると思います。

4．矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいの活動に関連して、以下の３点について報告します。

①木づかい学習会について
→各自治体で推進しています。動くおもちゃは県の補助事業に採択されました。

②全国源流サミットについて
→９月４日～６日に根羽村で開催されます。

③木づかいガイドラインについて
→根羽村では 50 年後に人口が０にならないようにするための取組をしています。

◆話し合いでの主な意見 （・意見　➢回答）

●山村再生担い手づくり事例集について

＜今年度の取材先について＞

- 現時点で 25 団体が候補になっている。取材が困難になった場合も想定して合計 22 団体程度を選びたい。（洲崎）
- 日近太鼓（岡崎市）は、太鼓フェスティバルを通して地域おこしに貢献している。今回は、文化的な観点から取材先に推薦した。（沖）
- 蒲郡市漁場環境保全協議会は、矢作川流域圏からは外れるが、周三河湾というくくりで加えたいと思う。（洲崎）
- これまで取材者が少ないことが、取材先数を限定してきた背景がある。（蔵治）

＜山村再生担い手づくり事例集マップ（仮称）について＞

- 今回の確認の結果を反映するとともに、背景図を最新版にしてとりまとめを行う。（中田）

●山村ミーティングについて

- 額田、豊田の旭や足助には名だたる熟練者がいるが、彼らを連れ出すのは非常に大変である。（丹羽）
- 熟練者においても、見せたい人と見せたくない人にはっきり分かれると思う。（南木）
- 地元の森林組合に女性班が誕生したため、多くの取材がきたが、未熟だという理由で取材を拒んだ経緯がある。やはり見せたい人と見せたくない人に分かれると思う。そのため、ボランティアや素人山主に伐採後の切り口を見せて、熟練者が教えるような競わない形式が良いかもしれない。（今村）
- 技術ばかりに目を向けるのはよくないと思う。安全で楽しいということを示すことで、山主をやる気にさせるのが我々の役割である。（丹羽）
- 最近では、林業未経験者がＩターンとして就農している。林業に携わる我々ですら熟練者が分からない状況である。そういう意味では、熟練者をみせる場は必要だと思う。（南木）
- 流域のためには、熟練者も素人もどちらも大切であることを示す必要がある。そのためには、規模が小さくてもよく、あの程度で良いなら俺も出ると思わせることがフェスティバルの目標である。（丹羽）

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

＜①森づくりに関する事例等の提供依頼(流域の自治体及び中部森林管理局)について＞

- 岡崎市の間伐は年間５００ha を目標としているが、昨年は半分以下であり、流域圏全体でみても大幅に減少することが予想される。（蔵治）

＜②欧州型森林管理者研修 in 奈良の参加報告について＞

- 矢作川流域でいきなり極相林を目指すと言われても難しい。現段階では、今ある広葉樹林をどうするか、針葉樹林を混交林にするのかというどちらかの議論しかないと思う。拡大造林政策(単一樹種一斉林)という日本のとった手法は、その方が効率よく経済性も高いという発想からきているため、その発想を捨てないと実用的ではない。（蔵治）
- 根羽村では、人工林と混交林という環境林を残していく方向性は出している。ただ、実際には混交林の整備は進んでおらず、これから検討するというのが現状である。（今村）
- 豊田市と岡崎市がそれぞれ長期森林計画を立てており、人工林の面積を 2/3 に減らして、残りの 1/3 は針広混交林にすると宣言している。しかし、どこでモデル的にやるかという議論は全くない。（蔵治）
- 山主さんには、未だに人工林が儲かる時がくるという思いがあるため、混交林化には非常に抵抗が強い。その中に、エコノミーということもカバーできる混交林化という道があれば、良い流れができると思う。（洲崎）
- 昔の恩恵を受けた世代の人は、切り捨て間伐をもったいないという。人工林と混交林のエリア分けは、保全上必要であると理解を求めているところである。（藤井）

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

「矢作川について」（永井千遥さん（当時小学校６年）の作品を観賞して）

- 根羽村の子どもが源流から河口まで旅したという記録は、流域圏懇談会でも取り上げて、その意義について理解する必要がある。山村の担い手事例集が充実してくると寄れる場所が多くなる。旅をしながら、地域の人々の生き方を学ぶのは大切な事だと思う。（今村）
  - ➢ 小学生が、流域で生活をする人に取材しているところが素晴らしい。（蔵治）
  - ➢ この方に取材したいぐらいだ。（洲崎）

今後のスケジュール（予定）と情報提供

次回の山部会 WG は、８月 21 日（金）岡崎市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野

TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100

＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

HZ7 山部会編 vol. 4

発　行　日：平成 27 年９月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 27 回山部会WGを開催しました！

8 月 21 日(金曜日)に第 27 回山部会WGが岡崎市ぬかた会館にて開催されました。今回の WG では、山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関する進捗状況と今後の進め方について話し合いました。

日　時：平成 27 年 8 月 21 日（金）14 時 00 分～17 時 30 分
場　所：岡崎市ぬかた会館（2 階 2～3 会議室）
参加者：16 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1．山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集作成について、年度内に 20 件以上の活動団体（川・海の団体も含む）への聞き取りとレポート作成を行います。取材先の候補は現時点で 23 団体となっています。今後のスケジュール案は以下の通りとなっています。

1）取材先の確定（～8 月）
2）取材者の募集、確定（～9 月上旬）
3）取材者と取材先のマッチング（～9 月下旬）
4）取材（9 月下旬～11 月）
5）取材者によるレポートの作成・提出、交通費等の請求（12 月～3 月）

また、本日は取材者の立候補について。多くの方のご協力をお願いしたいと思います。

2．矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインに関連して、本日は岡崎市等の取り組みを３点紹介します。

①額田木の駅プロジェクトについて
→木の駅プロジェクトは、間伐材等を市場価格よりも高く買い取り森林整備を促進するのが目的です。岡崎市では、額田地区桜形町において平成 27 年５月 15 日（金）に木の駅プロジェクトが始まりました。木材の取引における対価は、現金ではなく、地域の商店でしか利用できない地域通貨券（森の健康券）を支払うことで、地域経済の活性化を促します。
開駅時点での出荷登録者は 50 名を越え、地域通貨券が使える登録商店も 46 店舗が加入しており、地域からも高い期待と関心が寄せられています。また、現時点の出荷数量は 490t で、市助成予算 840t の 58%に達しており、好調なすべり出しとなっています。

②岡崎市水循環推進協議会「緑のダム部会」について
→岡崎市では「岡崎市水を守り育む条例」に基づいて健全な水循環に関する基本方針、目標を定めた「水環境創造プラン」を策定しており、その進捗管理や健全な水循環に関する市長諮問について調査、審議するための機関として「岡崎市水循環推進協議会」が設置されています。今回、この協議会に対し、水量に関する重点施策の「再構築」について、市長から諮問されたため、その検討部会として蔵治先生を部会長とする「緑のダム部会」を設置しました。

③平成 27 年岡崎木こり塾について
→「自分の山を整備したい方」「ボランティア活動として、人工林の整備を目指す方」を対象に、人工林間伐基礎講座と人工林間伐実践講座を行います。

4．矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

本日は、木づかいライブ・スギダラキャラバンについて、安城市で開催された「動く木のおもちゃと木のある暮らしのアイテム展」の様子、「流域ものさし」の材料調達方法、今後開催する「あそべるとよた DAYS」、根羽村木材を活用した「どこでも根羽スギ物置き」を紹介します。良いアイデアがありましたら、ご意見をお願いします。

◆話し合いでの主な意見 （・意見　➢回答）

●山村再生担い手づくり事例集について

- 昨年は３人組で３団体ほどを取材し、そのうち１団体をレポーターとして担当した。今年の取材方法はどのような仕組みで行うのか。（浅田）
  - ➢ 今年度も去年と同様の形態をとるものと考えている。（蔵治）
- 皆さんに取材者としての希望を伺いたいと思う。昨年は、岡崎市環境部からも２名参加いただいた。今年も参加いただけるか。（蔵治）
  - ➢ 持ち帰って検討したい。（井上）
- 事務局補佐からの参加も考えている。（石原）
  - ➢ 昨年も事務局補佐の協力があったと記憶している。是非、お願いしたい。（蔵治）

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

<①木の駅プロジェクトについて>

- 好調なペースで出荷されているが、出荷規格（末口 10cm 以上、長さ 2m以上）の条件は大変かと思う。（今村）
  - ➢ 出荷された 490ｔのうち半数以上プロの出荷者である。自伐林家 10ｔ、20ｔと出荷しているが、機械や重機を持ち合わせない素人山主にとって、搬出運搬手段が課題である。（唐澤）
- 岡崎市からの補助金制度にも限りがあるので、小さくても良いので、額田に合った持続可能な仕組み作りが必要だと思われる。（浅田）
  - ➢ 地域外のボランティアが山に入れる仕組みが欲しいという意見は前回の会議でも出ている。丹羽さんがいう「山のお見合い」、すなわち自分ではできない山主と山を持たず林業に関わりたいボランティアをマッチングして、木の駅に材を搬出することで、多少の経費削減につなげるような仕組みを作りたいと考えている。（唐澤）
- これまで、地域外に買い物に出ていた人が、この地域通貨券を利用することにより戻ってきたと聞く。そのため、ゆくゆくは岡崎の街中で買い物をしている人々を、この地域に呼び戻すことができれば良いと考えている。（山田）
- 矢作川流域では岡崎、豊田、恵那、根羽と流域を網羅する形で「木の駅」が動いている。（蔵治）

<②岡崎市水循環推進協議会（緑のダム部会）について>

- 過去に愛知県が間伐を行っており、当時の県職員に森林の水源涵養機能の科学的検証を求めたが、具体的な回答がなかった。今後の部会では、矢作川流域に１つのモデルを設定して対策を行うことで、その間伐などの効果を科学的に見える化してはどうか。その結果を山の人が認識し、街の人に見せることが大切である。（荻野）
  - ➢ とても大事な意見である。荻野さんの子どもの頃に比べ、明らかに水が減ったなど思える川が額田の上流に存在するのか。（蔵治）
  - ➢ 岡崎市北部の鍛埜町内を流れる乙川では、明らかに水が減ったし川幅が狭くなった。（荻野）
- 水源涵養機能を産業とは別の立場で評価する岡崎市の取り組みは、日本全国でも例がなく、先駆的で素晴らしいものであるため、全面的に協力したいと考えている。（蔵治）

<③平成 27 年岡崎木こり塾について>

- 受講者は山主が多いのか、ボランティアが多いのか。（浅田）
  - ➢ 山主からボランティアまで、幅広く参加している。（唐澤）
- 講座終了後、既存の団体を紹介すると明記しているが、既存の団体に突然入るのはハードルが高いと思われる。そこで、受講した同期で新たな団体を形成してはどうか。たいてい受講者のうちの１人は山主がいて、その山主の土地を同期で管理しようという流れになることが多い。（蔵治）

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- 安城市と根羽村は、水源の森という全国初の森林整備協定を結んでいる。（今村）
- 二つの自治体は距離が離れているにも関わらず、上流域と下流域のつながりが保たれている。安城の小学生が根羽村で間伐体験を行っている。明治用水の初代の理事長さんの考えは「水を使う人は、水を作る人のことを考えなさい」という 100 年以上前の教えであるが、今でも受け継がれている。（野村）
- かつて伊勢湾台風や三河地震が起こったときに、下流域の人が山に木を買いにきたという話を聞いている。今回の安城市と根羽村の関係はそれを思い出させるものであり、今後の展望に光が見える。（齋藤）

今後のスケジュール（予定）と情報提供

次回の山部会 WG は、９月 25 日（金）～26 日（土）東幡豆（海部会との合同）にて開催します。

◆お問合せ◆
矢作川流域圏懇談会事務局
〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100
＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijnet.or.jp）までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol. 4, 5

発　行　日：平成 27 年９月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆山部会WGオプショナルを開催しました！

９月 12 日（土）～13（日）に山部会WGオプショナルが長野県にて開催されました。今回の WG オプショナルでは、木づかいガイドラインの一環として根羽スギを使った「中房温泉根羽の湯」、森づくりガイドラインの一環として「荒山林業」の見学及び研修を行いました。

日　時：平成 27 年９月 12 日（土）～13 日（日）
場　所：中房温泉及び荒山林業
参加者：10 名（事務局も含む）

◆主な活動内容

1．根羽スギを使った中房温泉根羽の湯

中房温泉「貸切温泉　根羽の湯」は、長野県の「県民税」を活用した平成 26 年度長野県事業「信州の木活用モデル地域支援事業」によって建てられました。建物や湯船に根羽村のスギ材をふんだんに使用したお風呂となっています。
根羽の湯の紹介文の中には、根羽村のモデル住宅「杉風（さんぷう）の家」、「小さく住まう魅力的な木の住まい」や木のアイテム「どこでもプランコ」、「どこでもオセロ」、「どこでも曲げわっぱ体験」、「どこでも根羽スギ物置き」・・・・・「どこでもシリーズ」といった根羽村の木づかいのお誘いをしています。

2．荒山林業について

① 研修の経緯

・近自然の森づくりとは、環境と経営の両立を目指す林業形態であり、スイス・ドイツが発祥の地となっています。日本では３年前に近自然学会が創設され、その手法が浸透しつつあります。矢作川流域のこの地方においては、近自然の川づくりが定着しているため、市民に親しみやすい概念であると思われます。今回、洲崎主任研究員が６月に開かれたスイスフォレスター研修会に参加し、そこで日本で近自然の森に一番近いと言われる荒山林業代表の荒山里利さん（故荒山雅行さんの奥様）に出会いました。そして、研修会の中で矢作川流域の森づくりの参考になるのではという話になり、今回の研修が実現しました。

② 荒山林業の特徴

・荒山林業は、現在の荒山雄大氏で８代目となるが、植栽を行う現代の林業形態は、約 100 年前（大正時代）より始まりました。カラマツを植栽したのが始まりですが、所有地のうち 6～7 割が天然林であり、スギ・カラマツ・アカマツ・ヒノキの人工林は３割に過ぎません。人工林も天然林も基本的には伐期を設けず、非皆伐施業による単木管理を目標としています。

●カラマツ（樹齢 97 年）と落葉広葉樹の混交林

- 林内には、曲がった木や折れた木が点在するが伐らないのか。
  - 先代の荒山雅行氏は「無用の用」と言い、一見無用にみえてもキツツキやムササビやモモンガが利用しているかも知れないと考えていた。非常に老荘思想に熟達していて、東洋哲学を重んじる人物であった。
- カラマツの間伐は、基本的には小さな木から優先して伐るのか。
  - 単純にそうとは限らない。将来育てたい木を残すために邪魔な木を優先して伐る。

荒山林業の荒山重利代表の解説

曲がった木や折れた木が生かされた樹林

カラマツを林冠とする階層構造の発達した林分

●哲学の森（落葉広葉樹優占の森）～アカマツとブナの混交林

- ここは薪炭林時代から皆伐をしない施業であったか。
  - 荒山家の森には 100 年を超える木はほとんどなく、明治時代までは基本的には皆伐であったと考えられる。
- スイスのフォレスターであるロルフ氏との選木バトルでは、伐る木と残す木に相違があったのはなぜか。
  - スイスのフォレスターは、請け負った中で採算をとる必要があり、育てるという考えはないからだ。

企業組合山仕事創造舎の雲山由人代表の解説

ロルフ氏と荒山雅行氏の選木状況についての解説

カラマツの密生試験個所

●のま地区（スギの人工林）

- スギの植林は珍しいと思う。
  - この地域のスギ植林の歴史は、拡大造林期以降の荒山家が初めてである。そのため、苗木の出所がわからない。未だに北安曇地区はスギの主伐を行った経験がなく、未熟なスギ林業を展開している。
- この地区の採算はどうか。
  - この地区ではマイナスである。別の地区で補助金による間伐を行っているため、トータルで±0 というのが現状である。

拡大造林以降の初めて試みたスギ植林

広葉樹が侵入した明るい林床

アスナロやヒノキが植栽されたスギの林床

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野

TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100

＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

第27回山部会・海部会編 vol.5

発　行　日：平成 27 年 10 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第28回山部会・海部会合同WGを開催しました！

9月25日(金)～26日(土)に第 27 回山・海部会合同 WG が東幡豆にて開催されました。今回の WG では、山部会の議事、海岸の観察、漁協組合・漁業者の方々との懇談、トンボロ干潟でのフィールドワークを行い、山と海における活動報告と矢作川流域圏の課題について部会の枠を超えて検討しました。

日　時：平成 27 年 9 月 25 日（金）～26 日（土）
場　所：東幡豆漁業組合（会議室）
参加者：28 名（山部会・海部会・事務局を含む）

◆主な会議内容

1．山部会の議事

（1）山村再生担い手づくり事例集について
一昨年から、矢作川流域内で山村再生に関わる団体の取材を行ってきました。昨年からは山だけでなく川海に関わる団体も取材先として加え、東幡豆漁業協同組合にも取材させていただきました。今年は海部会の方にも取材者をお願いしたいと思います。

（2）矢作川流域山村ミーティングについて
次年度行う予定の矢作川流域フェスティバルにおいて、流域のプロとボランティア（素人）が技術を競い合うお祭りをしたいと考えており、現在検討中です。

（3）矢作川流域圏森づくりガイドラインについて
矢作川流域での森づくりの現状を知っていただきたい観点から本日は岡崎市の取り組み（木の駅プロジェクト、緑のダム部会の創設）について紹介します。また、流域圏の自治体別の間伐状況、愛知県の素材の利用実態について報告します。

（4）矢作川流域圏木づかいガイドラインについて
1 つ目の柱として住民,業界,行政,教育から「さあ～しよう」というテーマで木づかいに関する情報を収集しています。2 つ目の柱として木の魅力を発信するスギダラキャバンを進めています。3つ目の柱として木を使ったアイテムを流域に広める活動をしています。

2．海岸の観察

ここでは干潮時に現れる干潟によって、港から前島に歩いて渡ることができるトンボロ現象がみられます。愛知県では珍しい場所であり、大切な観光資源でもありますので、流域の方々によく知ってもらいたいです。

3．漁業組合・漁業者の方々との懇談

今回は山部会と海部会が合同で行う初めての会議です。通常、山部会はもとより海部会の会員にとっても漁業関係者の話を生で聞ける機会は珍しいと思います。そこで、漁業関係者がおかれている現状や山部会に対する要望など、部会の枠を越えて話し合いました。

4．トンボロ干潟周辺におけるフィールドワーク

・ゴミや流木の問題は、流域連携テーマにもなっています。トンボロ干潟では流木の問題は小さいですが、ゴミについてはペットボトルや空き缶など、いわゆる生活系のものが多くみられました。
・矢作ダムの砂の投入個所周辺にはアサリが密集して生息していました。今後の砂の浸食と堆積を把握するためにリング法による計測を開始しました。
・干潟の生き物については、石川組合長より説明がありました。

リング法による干潟の計測開始

◆話し合いでの主な意見 （・意見 ➢回答）

●山部会の議事について（参加者は、山部会員および海部会員）

<①山村再生担い手事例集について>

- これまでの活動では、取材先と取材者の間で林道をつくったり街中のイベントを行ったり、新しい展開が生まれつつある。流域の中でも自分の活動範囲にないところに交流ができる良いきっかけとなるので、海部会の方にも参加をお願いしたい。（洲崎）

<②矢作川流域圏山村ミーティングについて>

- 漁業の世界ではＩターンの定着率が非常に悪いのが現状である。それは、地域に本物の人材を育てる覚悟がないためである。林業のＩターンの受け皿はどうか（鈴木）
  - ➢ 上流域においては、総合的なＩターンの受け入れは比較的充実している。しかし、林業に焦点をあてると、漁業と同じ現実がある。（丹羽）
- 根羽村で検討しているのは、「農地と林地だけでなく家を用意する」ことで、夢や希望が持てるのではないかということ。家があれば、元々自然が大好きな人が集まるため、給料は安くても何とかなると思う。（今村）

<③矢作川流域圏森づくりガイドラインについて>

- 昔は漁港ごとに必ず水産加工場があった。漁獲量が多く値崩れを起こしている産品を買い上げて、地域ごとの一定の価格を維持していた。しかし、今は水産加工業が消えて、価格の緩衝機能をもたなくなった。こういう流れは、林業でも同じではないか。（鈴木）
  - ➢ 日本の山を伐採するかなりの業者が、山から直接製材する形態がとられ、丸太が流通しなくなった。（蔵治）
- 丸太の消費減少に関して、今は貯木場の機能が減退した。一部の反対者はいるものの、積極的に貯木場をつぶしているのが現状である。素材の需要量の減少と海の貯木場の減少が大きくリンクしていると思う。（鈴木）

<④矢作川流域圏木づかいガイドラインについて>

- 流域ものさしの長さは 1.8m でよいか。（蔵治）
  - ➢ 統一規格としては、実物の 100 万分の１の 11.8cm にして、あとは自由とする２種類を考えたい（今村）
- 環境省の緑の国勢調査の結果を使って、この 10 年で流域にどんな変化があったのかをみると面白い。（洲崎）
  - ➢ これは事務局補佐のアジア航測が得意技であるため、是非お願いしたい。（蔵治）
  - ➢ 作成する。（中田）
- せっかく山と海を結ぶという会議なので、夏休みに宿泊を組み込んだ市民参加型の筏下りをしてはどうか。（太田）
  - ➢ 次年度から矢作川流域フェスティバルという行事を企画している。それは、これまで川を主体としてきた川会議を山川海の人々を楽しくつなげるイベント的な行事にしたいと考えていて、10 年前まで行われていた筏下りも復活させようと考えている。（洲崎）
- 流域キャラバンは、夏休みの子どもたちを対象に、茶臼山の源流地点から河口までを自転車で下るイベントも考えている。流域を知ることが次世代を育てる重要なカギだと思う。（今村）

●漁業組合・漁業者との懇談

- 漁協者の希望は①ミネラルの豊富な水を流してほしい。②良質な砂を流してほしいということだ。（石川）
- 近年の水質は悪化しているのか。（井上）
  - ➢ 夏に海底の酸素がなくなる貧酸素によって、魚が死ぬ確率が高くなっている。（鳥居）
  - ➢ 今まで貧酸素になる原因は、陸からの流入負荷（窒素とリンが流入したため）と考えられてきた。ところが、流入負荷が軽減しても一向に水質が改善されなかった。それは、干潟・浅場・藻場の埋め立てが原因だったのである。そもそも、海が健全であれば、少々の陸の問題など消し去るくらいの緩衝能力を持つことが証明されている。ところが、その緩衝能力を壊したので、余計に陸域の問題に敏感になってしまったというのが現状である。（鈴木）
- 海の漁業資源と担い手の良好な循環が形成される地域は日本に存在するか。（丹羽）
  - ➢ 名古屋港に近い鬼崎では、海苔と小型底引き網を使う漁業が行われている。近年では若い世代がスキューバを使った採貝を行ったり、スキューバ教室をしたり都会との接点を持ち続けて収益を上げている。（鈴木）
- 海を壊滅的な破壊に導く開発については、漁業者がはっきり声を上げていくことが重要である。（鈴木）

●トンボロ干潟と合同部会全体の意見・感想など

- 海ゴミの中で、国はマイクロプラスチックの全国調査を行っている。前島では岩場のペットボトルが目につき、現状を目にすることができた。（石垣）
- 日頃は海部会に出席することが精いっぱいになっている。今後も合同部会を企画していただきたいと思う。（青木）
- 土砂の移動には、木の駅同様に「砂の駅」を流域につくり、市民の力で少しずつ河口に運んではどうか。（丹羽）

今後のスケジュール（予定）と情報提供

次回の山部会 WG は、10 月 16 日（金）～17 日（土）岡崎市にて開催します。（海部会は今後決定）

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野

TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100

＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください

矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol. 6

発　行　日：平成 27 年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 29 回山部会WGを開催しました！

10 月 16 日（金）～17 日（土）に第 29 回山部会WGが岡崎市ぬかた地区にて開催されました。今回の WG では、山村再生担い手づくり、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関する進捗が報告されるなど、今後の活動に対する話し合いが行われました。

日　時：平成 27 年 10 月 16 日（金）～17 日（土）
場　所：岡崎市ぬかた会館（2 階 2～3 会議室）ほか
参加者：28 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1．山村再生担い手づくり事例集について

山村担い手事例集の取材者が決定しました。12 月までに取材を行う予定であることを周知しました。

取材先	取材者
飯伊森林組合平谷事務所、天下杉、夕立山森林塾	近藤朗、石原淳
野外保育とよた森のようちえん、森のたまご、農村資合アートプロジェクト、稲武山里体験推進協議会	第口裕太、宇野和尊、Siti Norbaizura、武岩光一郎
おいでん・さんそんセンター、老人福祉センターぬくもりの里、有間竹林愛護会	松井賢子、沖章枝、大森正明、
あさひ森の健康診断、あさひ新づくり研究会、しもやま再来るプロジェクト	高橋伸夫、田中五月、桑淳
あすけ尚さ否さ隊、山里センチメンツ	洲崎紘子、今村豊
コレカラ商店、ファーストハンド、トム・ヴィンセント氏	丹羽健司、吉橋久美子
鳳川ホタル保存会、銀田木の駅プロジェクト、日近太鼓	青水雅子、井上崇也
猪鼻市鮎場環境保全協議会、鳥を美しくする会	浅田誠尊、井上祥一郎

2．矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインに関連して、本日は主に以下の 2 点について報告しました。

①矢作川流域市村（平谷村、根羽村、恵那市、豊田市、岡崎市）の間伐面積
矢作川流域市村全体の間伐面積は、2010 年をピークに年々減少しており、特に昨年は大きく減少しました。国による間伐は搬出を義務付けていることから、間伐面積の半分を県税（搬出をしなくても補助金が交付される）に依存している状況です。

②矢作川流域市町村の森づくりに関する事例
行政に事例を募集したところ、長野県下伊那事務所、恵那市、安城市より回答をいただきました。

3．矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいの活動に関連して、以下の 3 点について報告しました。

①根羽物置
→10 月に名古屋で行われた建築総合展では、サンプル依頼もありイベントに使いやすいと非常に好評でした。実物を見ていただき、ご購入いただきたい。

②根羽村におけるヤギの投入の事例
→遊休農地の除草対策だけでなく、村の活性化の起爆剤としたいと考えています。

③木づかいガイドライン
→現在は根羽村森林組合が主体となって実績を作っています。今後は流域に展開していきます。

4．岡崎市額田地区におけるフィールドワーク

今回は額田地区において、以下のフィールドワークを行いました。

①千万町地区の砂防堰堤
→千万町小学校をきむ集落を守るために大規模な砂防堰堤が愛知県によって建設されましたが、保全対策として守るべき小学校は昨年廃校を迎えました。

②切山の大杉
→樹齢 1000 年以上の大杉は、枝からクローンを形成する珍しい巨木でした。

③乙川（西風橋周辺）の水量の減少
→子どもが飛び込むことは難しく確かに水位が低下しているように感じました。その一方で下流側の堰堤に砂が溜まって河床が上昇した可能性も指摘されました。

◆話し合いでの主な意見 （・意見　➢回答）

●山村再生担い手づくり事例集について

＜山村再生担い手事例集の活用＞

- 事例集の活用について嬉しい報告がある。人間環境大学の学生さんより農業・林業体験がしたいという申し出があったため、事例集を渡したところ、宮ザキ園での茶摘み体験を行うことになった。今後、額田林業クラブにも授業の申し出があるかもしれない。その時はよろしくお願いしたい。（沖）
  - ➢ この事例集がきっかけとなり、人と人がつながれば素晴らしいことである。（洲崎）
- この事例集をインターネットで閲覧できるとよい。（太田）
  - ➢ すでに豊橋河川事務所のホームページ上で公開されている。URL の拡散を望む。（洲崎）

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

＜①矢作川流域市町村の間伐面積＞

- 保安林整備事業に含まれる間伐は、その事業自体の予算が大幅に減少しているため、間伐面積は減少の一途をたどっている。造林や水源基金の名目での間伐が可能であるが、県の森林税では間伐はできない。（山田）
  - ➢ 森林税に保安林が含まれないという制約がついており、これが問題である。（蔵治）
- 豊田市で補助金をつかった巻き枯らし間伐が、過去に４回確認されているが、なぜ一時期に集中したのか（沖）
  - ➢ 豊田市は巻き枯らしで間伐を進める予定であったが、景観の悪化や災害時の流木の問題から山主に理解が得られなかった。そのため、事実上巻き枯らし間伐は低迷している状況である。（蔵治）
- 巻き枯らし間伐は、生態系にとって林床植生が発達するなど非常に良い効果が期待できる。（洲崎）
- 千万町には、廃校となった小学校横に工事費６億～7 億円の砂防堰堤が建設された。そのお金を間伐の助成に使っていただけたら、災害は減ると思う。現在、千万町では小学生や中学生は一人もいない。農林業では生活ができないため、若い人の流出が止まらなかった。間伐の必要性は皆十分承知しているが、どうにもできない。（山本）
- 愛知県の素材（丸太）の需要量のグラフでは、ピーク時（1973 年）の 1/40 に減少してしまった。これは矢作川流域に限らず愛知県、日本全体の傾向である。（蔵治）
- 2014 年は、根羽村においても間伐面積が大きく減少している。これは、雪害対策に間伐のための予算が使われたためと考えられる。（今村）
- 丸太が必要ないということだが、この部会ではその状況を打開する協議を行うべきではないか。（鈴木）
  - ➢ 豊田市は、そういう危機感から製材工場の建設を決断した。額田地区の方々が、真剣に木材生産の未来を考えるなら、豊田の製材工場を活用する戦略を協議すべきである。（蔵治）

＜②森づくりに関する事例＞

- 森づくりに関する事例収集については、流域の３団体の回答にとどまった。そのため、我々が他の事例を選定する必要がある。表現は工夫する必要があるが、どのような見せ方をすべきか。（蔵治）
  - ➢ 事例集の取材先をマップに載せる作業を行っているが、同じ地図に載せるとよいのでは（洲崎）
  - ➢ 今年度は、ベースを作成したいと考えている。（大森）
- 特徴的な森づくりの事例というのは、あまり難しく考えずに、この森を見てもらいたいという発想でよいのではないか。（今村）
- 森林組合などの一押しの森（巨木・銘木にとらわれずに）を紹介してはどうか。（北川）
  - ➢ 引き続き、森林組合や部会からご推薦いただきたい。（蔵治）

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- 根羽村のヤギの放牧については、若者（子ども）の集客を期待している。今後はヤギの乳製品に展開したいと考えている。いずれの活動にしても必ず若者（子ども）が関わることを意識している。（今村）
- 「あそべるとよたＤＡＹＳ」は、豊田の中心市街地活性化を目的とする初めての取組みであり、そこに根羽村が参画することになった。矢作川の上流域と下流域がお互いに元気になるような企画である。このような取り組みが流域に広がることを期待している。（洲崎）
  - ➢ この取り組みは、流域圏懇談会で毎回言われている「流域内フェアトレード」の見える化である。（今村）
- 社会の需要を考えると、今は丸太ではなく別のものが求められていて、その時代に沿って考えているのが「矢作川流域圏木づかい」である。その主役は、流域内の若者や子どもであると考えている。（蔵治）

今後のスケジュール（予定）

次回の山部会 WG は、11 月 27 日（金）恵那市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野

TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100

＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijnet.or.jp）までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol. 1

発　行　日：平成 27 年 12 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 30 回山部会WGを開催しました！

11 月 27 日（金曜日）に第 30 回山部会WGが上矢作林業センターにて開催されました。今回の WG では、山村再生担い手づくり、山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関する、進捗状況と今後の進め方について話し合いました。

日　時：平成 27 年 11 月 27 日（金）14 時 00 分～17 時 10 分
場　所：上矢作林業センター（大会議室）
参加者：19 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1．山村再生担い手づくり事例集について

今年は、山村再生担い手づくり事例集作成の３年目であり完結の年です。現在、22 団体の取材を行っています。本日は、取材の進捗状況の確認と今後の予定について話し合います。

①取材の進捗状況

既に取材が終わった団体（4 団体）

◆稲武山里体験推進協議会　◆おいでん・さんそんセンター　◆有間竹林愛護会　◆あさひ森の健康診断

今後取材を行う団体（18 団体）

◆飯伊森林組合平谷事務所　◆天下杉　◆夕立山森林塾　◆野外保育とよた森のようちえん 森のたまご　◆農村舞台アートプロジェクト　◆老人福祉センターぬくもりの里　◆あさひ薪づくり研究会　◆しもやま再来るプロジェクト　◆あすけ聞き書き隊　◆山里センチメンツ　◆コレカラ商店　◆ファーストハンド　◆トム・ヴィンセント氏　◆鳥川ホタル保存会　◆額田木の駅プロジェクト　◆日近太鼓　◆蒲郡市藻場環境保全協議会　◆島を美しくする会

②今後の予定：12 月⇒中間報告会、12 月～3 月⇒レポートの作成・提出・交通費等の請求

2．山村ミーティングについて

当初は、山の担い手が一同に会する場づくりが目的でした。現在は、流域内の山の担い手が、一同に会することを本当に望んでいるかを含め、関係機関に声をかける難しさに直面している。

①現場仕事を持っている人に、夜に集まれというのは体力的に無理がある

②流域市村によって、森林組合の構成や規模が異なっている（Iターン中心の組合や地元中心の組合がある）

山村ミーティングの進め方について、皆さんのアイデアを伺いたい。

3．矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインに関連して、以下の情報提供と検討を行いたいと思います。皆さんのご意見をお願いします。

①全国植樹祭に関する中日新聞（岐阜地方版）の記事紹介（資料１）

②豊田市中核製材工場の稼働開始、豊田市森林計画のリニューアル（資料２、３）

③岐阜県民協働による森の通信簿事業（資料４）

④恵那市の森づくり推進委員会の現況（資料５）

⑤矢作川流域の特徴的な森林、樹木の地図上での表現方法の検討（資料６）

4．矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインに関して、現在の進捗を報告します。皆さんのご意見とご感想をお願いします。

①流域ものさし（スギ、ヒノキなど 12 種類の原木を入手済で年内に見本を作りたい）

②あそべるとよた DAYS（11 月にどこでもシーズを出展して、大盛況を得た）

②どこでも根羽物置（メッセナゴヤ 2015 に出展して、注文を受けるなど好評を得た）

③根羽村の間伐実績によるカーボンオフセットクレジット購入

（下流域の自治体に CO_2 吸収量を購入してもらい、それを原資として木づかいを推進する）

④豊田市浄水北小学校での間伐作業（学有林を活用して木づかいを推進する）

◆話し合いでの主な意見 （・意見　➢回答）

●山村再生担い手づくり事例集について

＜取材の進捗状況と今後の予定＞

- おいでん・さんそんセンターの所長さんとは初めてお会いしたが、色々なところに関わっておられて驚いた。取材の中で感じたことは、豊田市は地域の担い手に対して、非常に厚い支援を行っていることであった。（松井）
- 中間報告会の日程を決めた方が良いのではないか。次の山部会 WG は 12 月 21 日であるが 12 月の夜は忙しいかも知れない。1 月ではだめか。（蔵治）
  - ➢ 中間報告会を1月6日（水）19 時より行いたい。場所は豊田市職員会館とする。（洲崎）
- とりまとめについて、イメージとしては 2 月の全体会までに体裁を整えたい。全体会議に冊子があるとインパクトが違う。是非、間に合わせたい。（蔵治）

●山村ミーティングについて

- おそらく現場の技術者たちの根はやさしく、環境や地域に貢献したいという熱い思いを持った人たちである。ただ、恵南森林組合の平均年齢は 40 歳前後であり小さな子どもがいて、材木価格が安い中でコストや技術力向上のことを考えている。しかし、毎日の作業に追われ、なかなか同じ思いを持つ仲間が集まる状況にはない。汗をかくことに意義を感じるボランティア的な方々とは価値観が違うと思う。（小林）
- ボランティアとの共通のテーマとなり得るのは、技能の向上や安全面だと考えられる。技能の向上に関しては、恵南森林組合であれば架線の張り方、我々であれば国道沿いの木の搬出などのブレインストーミングをしてみてはどうか。また、安全面に関しては、特に事故についてお互いの意見を出し合い、改善を議論すべきである。もちろん、お酒を交えると効果的である。（今村）
  - ➢ 色々な状況を考えながら進めていきたい。（丹羽）

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

＜豊田市中核製材工場の稼働開始＞

- 根羽村森林組合でも、実施業者の西垣林業社長よりご挨拶いただいた。西垣社長からは、矢作川流域材という視点から、お互いに補完しあう関係で業務にあたりたいと説明を受けている。（今村）
- 西垣林業の伊藤さんに流域圏懇談会への講演をお願いしたところ了承を得た。そこで 1 月に行われる地域部会にお招きしたいと思う。（蔵治）

＜恵那市の森づくり推進委員会の現況＞

- 恵那市では森づくり推進委員会が平成 22 年に設置され、5 年ごとにとりまとめと新たな目標を設定している。平成 28 年度からの 5 年間は、基本的には前期と同じであるが、伐り置き間伐から利用間伐への転換やバイオマス施設の導入など、再検討を行っている。（原田）
- 地域材利用の拡大に関して、どのような具体的目標を持っているか。（今村）
  - ➢ 恵那市の地域材で柱 30 本以上を使った場合に助成する仕組みとなっている。それは、市外からの定住を目的としており、市内の移住に関しては、税制面で優遇を受けられるような支援を検討している。（原田）
- 公共事業における地域材の利用とは、どのような建物が対象となるのか。（今村）
  - ➢ 学校、幼稚園、役所、公民館などがこれにあたる。（原田）

＜矢作川流域の特徴的な森林・木＞

- 今年度中に成果として形にしたい。位置情報はどの様に収集するか。直接事務局補佐に連絡するか。（蔵治）
  - ➢ どちらでも構わない。どちらでも連絡を取り合うようにする。（大森）

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

＜流域ものさし＞

- ものさしの長さを川の距離に対応させると、短い河川では肩身がせまい。規格を揃えた方がよいと思う。（高橋）

＜どこでも根羽物置＞

- 建物は水平を出すのが難しい。その対応パーツなどがキットに含まれるとよい。また、目的が物置だけでなく書斎にもなると需要が高まると思う。（高橋）

＜豊田市浄水北小学校の伐採作業＞

- 恵那市の長島（おさしま）小学校では森の健康診断から木を使うところまでの仕組みづくりを目指している。流域は庄内川水系であるが、川を挟んだ関係ができたらよいと思う。（丹羽）

今後のスケジュール（予定）

次回の山部会 WG は、12 月 21 日（月）豊田市にて開催します。

◆お問合せ◆
矢作川流域圏懇談会事務局
〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100
＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijnet.or.jp）までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol. 8

発　行　日：平成 28 年 1 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 31 回山部会WGを開催しました！

12 月 21 日（月曜日）に第 31 回山部会WGが豊田市職員会館にて開催されました。今回の WG では、山村再生担い手づくり事例集、山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関する、進捗状況と今後の進め方について話し合いました。

日　時：平成 27 年 12 月 21 日（月）13 時 00 分～16 時 00 分
場　所：豊田市職員会館 2F 第 1 会議室
参加者：18 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について

現在、山村再生担い手づくり事例集は、取材が概ね終了し、とりまとめに移行しています（資料 1）。今日は取材を終えての感想、意見などを班ごとにお願いします。なお、1 月 6 日（水）に事例集の中間報告会を行います。取材先に確認を行っていない状況でも全員で読み合わせを行います。矢作川研究所にお集まりください。それ以降は、1 月中に完成版を提出、年度末にかけて校正を行ってまいります。

2. 山村ミーティングについて

山村ミーティングの進捗状況は、前回のワーキングから大きな変化はありませんが、山村再生担い手づくり事例集や木づかいガイドラインで様々な人間関係が構築されてきました。この人と人のつながりを、新たなイベントの創出につなげることはできないかと考えています。引き続き、良い意見があれば募集しますので、よろしくお願いします。

3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインに関連して、以下の情報提供を行います。皆さんのご意見をお願いします。
①矢作川流域圏の特徴的な森林に関する段戸裏谷原生林の紹介（別添資料）
②矢作川流域圏の特徴的な森林と巨木・並木のマップ（資料 2）
③市民発！まちづくりシン展事業（半農半林）の紹介（別添資料）
④森林整備講演会・シンポジウム-緑の宝物 岡崎市の森林-の事後報告（回覧）
⑤第 1 回あさひ森の健康診断（初の地域主催）の事後報告

4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインに関して、現在の進捗を報告します。皆さんのご意見とご感想をお願いします。
①流域ものさし（どのような木を用いて、どのように製作するか）
②あそべるとよた DAYS のその後（プレイスメイキングの効果と展開）
③次世代を担う子供たちにとその親に向けて
④林業立村シンポジウム（於：十津川村）の事後報告

◆話し合いでの主な意見 （・意見　➢回答）

●山村再生担い手づくり事例集について

＜取材の進捗状況と今後の予定＞

- 天下杉という演芸団体の取材を担当したが、6 時間を超える取材および学ランを着て自ら出演するといった状況は、初めての体験であった。重要なキーワードとして、担い手が若者である必要はなく、年齢を重ねても自ら行動することが大切だということを学んだ。（近藤）
- 今年度で予定していた 3 冊の事例集が完成するが、来年度以降は取材者と取材先が集まれるようなミーティングイベントをしたいと考えている。事例集に書けなかったことや後日談がきっとあると思う。（洲崎）
  - ➢ 面白い。今回の取材先である天下杉は、過去に取材した「ねば杉っ子餅」や「きくの会」との関わりが深く、メンバーもオーバーラップしている。流域（山村）文化祭という考え方だけでなく、木づかいとの関わりを目指すことも可能であると考える。（近藤）
- 老人福祉センターぬくもりの里は、福祉施設というより建物全体が美術館のようなギャラリーになっていた。福祉は受けるだけではなく、入所者が持っているパワーを引き出す場所だと感じた。（沖）
  - ➢ 今回は文化的な活動団体が加わったため、取材の経験者も新たな経験をしているようだ。（洲崎）

●山村ミーティングについて

- 今後とも流域の人々が何かの形で交われるイベントを模索したいと思う。（丹羽）
  - ➢ 山村再生担い手づくり事例集で培った人間関係を活用したイベント、先ほど提案された流域（山村）文化祭と協働してみてはどうか。（蔵治・洲崎）

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

＜矢作川流域圏の特徴的な森林に関する段戸裏谷原生林＞

- 段戸裏谷原生林は、北設楽郡設楽町の標高 1000m前後に分布する県内では数少ないブナクラス域の天然林である。多くの巨木も残存する自然度の高い場所であるため、矢作川流域圏の特徴的な森林に推薦した。（洲崎）

＜矢作川流域圏の特徴的な森林と巨木・マップ＞

- 前回の WG と比較してだいぶ増えてきた。推薦したい場所はまだあると思うので、名称と緯度経度をお知らせいただきたい。（蔵治）

＜市民発!まちづくりシン展事業（半農半林）の紹介＞

- この事業の補助金というのは、矢作川水源基金によるものか、豊田市によるものか。（蔵治）
  - ➢ 矢作川水源基金によるものである。（洲崎）
- 実に様々な団体が、街と田舎をつないでいる。ご紹介の事業は、部会員の山本さんが代表を務めている。（蔵治）

＜森林整備講演会・シンポジウム-緑の宝物 岡崎市の森林-の事後報告 ＞

- 12月6日に行われたシンポジウムの参加者は 107 名で会場のぬかた会館は満席であった。おそらく、山の人だけでなく街の人も多かったと思われる。（蔵治）
- 岡崎市林務課の姿勢が積極的になられたと感じ、嬉しく思った。（沖）
- 岡崎市林務課に成功させようという強い意志が感じられた。（丹羽）

＜第 1 回あさひ森の健康診断（初の地域主催）＞

- 出席者は 60 名を超え、最上川（山形県）の森の健康診断の主催者も訪れた。出席者のほとんどが発言し、地域の未来を真剣に考えた。旭地区ならではのアットホームな熱い報告会であった。（丹羽）

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

＜流域ものさし＞

- 山村再生担い手づくり事例集では、木づかいと関わりを持つとの意見が出たが、木材加工を生業としている団体との繋がりは持てないか。（丹羽）
  - ➢ 連携する天竜川との関係から、ベースの製作では統一を図るため難しいが、その後のオリジナルの製作では是非流域圏の人々に声をかけたいと考えている。（今村）

＜あそべるとよた DAYS のその後＞

- 県の森林環境税（県内の団体のみ有効）を財源とするようアピールおよびパッケージ化してはどうか。（蔵治）
  - ➢ 事例集を活用して、愛知県内の団体との繋がりを模索したい。（今村）

＜次世代を担う子供たちとその親に向けて＞

- 今後開通する新東名の岡崎市内のサービスエリア（自然を題材にしている）に木づかいを売り込んではどうか。（高橋）

＜林業立村シンポジウム（於：十津川村）の事後報告＞

- 豊田市や木の駅プロジェクトの内容も含まれ、この地域の取組みが先進事例として認められている。（蔵治）

◆お問合せ◆
矢作川流域圏懇談会事務局
〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100
＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iinet.or.jp）までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

H27 山部会編 vol. 9

発　行　日：平成 28 年 2 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第７回山の地域部会を開催しました！

1 月 15 日（月）～16 日（土）に第７回山の地域部会が根羽村にて開催されました。今回の地域部会では、「平成 27 年度の山部会の活動報告」として進捗状況を報告するとともに、「今後の山部会の活動方針」について話し合いました。また、豊田市で中核製材工場を運営することとなった西垣林業のご担当者をお招きし、情報提供と意見交換を行いました。その他、山村再生担い手づくり事例集の取材先となった根羽村の演芸集団「天下杉」による舞台、薪ボイラーを用いた高齢者福祉施設、根羽杉を使ったモデル住宅・根羽物置の観賞、見学を行いました。

日　時：平成 28 年 1 月 15 日（金）～16 日（土）
場　所：根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」　他
参加者：25 名（事務局含む）

◆主な会議内容

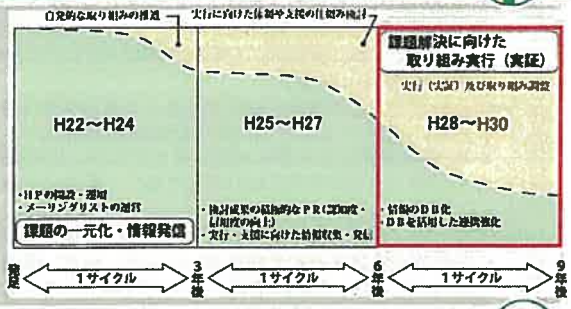
1．今年度の山部会の活動進捗報告

今年度は、山部会 3 ヶ年の活動テーマである①山村再生担い手事例集、②山村ミーティング、③森づくりガイドライン、④木づかいガイドラインの 4 つのテーマについて８回の WG を実施し話し合ってきました。山部会 WG は、開催地が矢作川流域圏内を巡るのが特徴で、今年度は豊田市足助、根羽村、恵那市上矢作、岡崎市額田、西尾市東幡豆を巡り、それぞれの地域に即した現状を把握し、議論を深めました。また、有志によるオプショナルでは、長野県内にて根羽スギを用いた温泉施設の見学や近自然森づくりを実践する荒山林業を視察し、矢作川流域圏への展開を目指した勉強会を行いました。

2．今後の山部会の活動方針

矢作川流域圏懇談会は、3 年を 1 サイクルとして総括を行いながら全 3 サイクルを行うことになっています。1 サイクル目が平成 22 年度より始まり、今年度平成 27 年度は２サイクル目の最終年度にあたります。したがって、本地域部会では２サイクル目の総括と３サイクル目の３ヶ年の活動方針を議論しました。

２サイクル目までは、「課題の一元化、情報発信」が主な取り組み内容となっておりましたが、今後は「課題解決に向けた取り組み実行（実証）」に重点がおかれます。



3．意見交換

豊田市では、平成 30 年度より中核製材工場が稼働することになりました。本日は公募により採択された西垣林業(株)伊藤部長より、事業の趣旨と目標をご紹介いただき、流域圏の望ましい未来を語り合いました。

4．根羽村の演芸集団、木づかいに関する観賞・見学

山部会の活動テーマのひとつである山村再生担い手づくり事例集では、地域を元気にする団体の取材を行ってきました。今回は、その一つである根羽村の演芸集団「天下杉」の舞台を観賞しました。また、根羽村が発信する木づかいとして、薪ボイラーを利用した高齢者福祉施設「なごみ」、根羽杉を使ったモデル住宅、根羽物置を見学しました。

◆話し合いでの主な意見 （・意見　➢回答）

●今年度の山部会の活動進捗報告

＜山村再生担い手づくり事例集＞

- 事例集のマップについて、ホームページ上では、どれくらいの大きさで出すのか。（今村）
  - ➢ ホームページ上では、自由に拡大ができるようにする。（大森）
- 全体会議の資料における、事例集のマップは流域全体が１枚である方が分かりやすいので、字の大きさ等工夫をお願いしたい。（洲崎）
  - ➢ 事例集の作成は３ヶ年行っているため、活動拠点のポイントについては、作成年ごとに３色に分けて表示すると良いと思う。その他の表現方法を含め、今後相談して決めていきたい。（中田）

＜山村ミーティング＞

- この度、足助の原木市場が県森連に移管された。森林組合から離れたので、もみじ祭りを発展させた流域祭りに移行することが可能かも知れない。豊田森林組合の状況はどうか。（蔵治）
  - ➢ 森林組合としては、公式な発表はないが、もみじ祭りは今年度が最後だと認識している。だからといって、来年度以降のビジョンは決まっていない。（木下）
  - ➢ チャンスと捉えるべきだ。森林組合は根羽、恵南、旭、小原、足助、下山、岡崎があって、岡崎には岡森フォレスターがあったり、色々な活動を皆さんが独自で行っている。これらをつなぐことができれば、何かイベントが開催できるかも知れない。西垣林業さんも加わっていただき、流域で盛り上げていきたいと思う。（丹羽）

＜森づくりガイドライン＞

- 資料にまとめていただいたが、今年度できた事を示したい。岡崎市や豊田市においては、様々な新しい動きがあって、それは流域圏全体の森づくりにつながる動きだ。その中で、提案や情報提供・交換の仕組み作りを考えているところである。（蔵治）
- 岡崎市や豊田市の取り組みについては良く理解できたが、他の流域市町村はどうか。（浅田）
  - ➢ 根羽村では、集落周辺環境林という概念を入れて、人と関わるような森林を意図的に作っていく。森林だけではなく、遊休農地と森林が一体となって、資源を活用できるような農林一体化事業を議論している。（今村）
  - ➢ 恵那市では、森林整備に関して基本計画と実施計画が策定されており、実施計画が今年度で終了する。現在、来年度以降の検討を協議中である。（藤井）
- 矢作川流域の特徴的な森林を部会員によって選定してきたが、これは今後も継続してほしい。（今村）

＜木づかいガイドライン＞

- 今年度は、木づかいライブ・スギダラキャラバンを中心に動いてきたが、一番大きな収穫は、豊田市におけるプレイスメイキングという経験を経て、木というものが市民の興味関心を引き付けるものであり、日本人は木の民であることに気付かされたことだ。（今村）
- 木づかいは、根羽村だけで行っていることではないと思われる。他の地域でもアピールする情報があれば、是非知らせていただきたい。（蔵治）

●今後の山部会の活動方針

- 懇談会の活動資金について、国や企業の新たな事業を模索して、自分たちで調達してはどうか。（丹羽）
- 山村再生担い手づくり事例集に関しては、今後３年間というより、段階的に翌年の目標を考えたいと思う。（洲崎）
- ご提示いただいた図（前頁参照）について、段々と緑から黄色にシフトしてきて、課題解決に向けた取り組みが実行（実証）されるような計画になっているが、６年前に立てた当初の計画が本当に実現可能かを議論すべきかと思う。そもそも、関係団体、関係行政機関がそれぞれの役割について認識を持ち、互いに連携して諸課題に取り組む状況にはない。（蔵治）
- これまでの活動成果が発信できるような予算を確保できないものか。（今村）
  - ➢ 矢作川条例（仮）を流域の市町村が同時に作れば、それに基づいた取組みが行政的に始まると思う。（蔵治）
  - ➢ 中部環境先進５市によるサミットでは、共同宣言を行った。条例の他に宣言という方法もある。（今村）
- ４つのテーマは非常に良い柱だと思う。今後はより改良するようなテーマを加え市民から理解を得たい。（浅田）

●意見交換（豊田市に中核製材工場ができる意義）

- 県産材を優遇する考えが浸透している。現在、根羽村としては流域材を意識するよう取り組んでいる。豊田市にも働きかけるが、西垣林業さんにもご配慮いただきたい。
  - ➢ 確かに、県産材の指定がついてまわるのが現状だ。今後は地域材という輪に加わって地域と共存したい。（伊藤）
- 西垣林業さんはＡ材（製材用）、Ｂ材（合板用）の価格の底上げにどのように関わっていくつもりか。（丹羽）
  - ➢ 木材産業はこれまで衰退産業であったが、ここ最近メディアに取り上げられる機会が多くなった。この追い風を利用して、大手の製造業のご意見を参考に売り込みができたらと思う。（伊藤）
- 流域圏にどれくらいの零細製材工場があるかは不明だが、これら工場との共存は可能か。（浅田）
  - ➢ 零細工場にしかできないこともある。それらを融通し合うことで、共存・共栄を目指している。（伊藤）

◆お問合せ◆
矢作川流域圏懇談会事務局
〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100
＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ilnet.or.jp）までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

全体会議 vol. 1

発　行　日：平成 28 年 3月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第５回全体会議を開催しました！

2月 22 日（月曜日）に矢作川流域圏懇談会第５回全体会議を開催しました。本年は流域圏懇談会の２ステージ目のまとめの年であり、平成 25～27 年までの進捗状況の確認と３ステージ目の活動方針の意見交換を行いました。

日　　時：平成 28 年２月 22 日（月）14:00～16:00
会議場所：豊田商工会議所２F　多目的ホール 201～203
参 加 者：76 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1.確認事項（H25～27 の運営方針、各部会の活動進捗、流域連携テーマに関する成果）

■H25～27の運営方針

1年ごとに「企画・調整」「検討・実施」「とりまとめ・報告」の3段階で運営している。その中で、「部会別のWG」にて個別の課題の検討している。また、流域圏一体化に関わる内容については、「市民企画会議」「勉強会」「市民会議」で議論された。

■各部会の活動進捗

●山部会

「山村再生担い手づくり事例集」「山村ミーティング」「森づくりガイドライン」「木づかいガイドライン」の4つのテーマを愚郡、根羽、豊田、岡崎、西尾の5つの地域で議論した。また、先進事例を視察する勉強会を長野県（荒山林業）等で実施した。

●川部会

「本川モデル」「家下川モデル」「地先モデル」の3つのテーマを数回ずつに分けて議論した。また、現状の把握と先進事例を学ぶため、現地視察（小渋ダム土砂バイパストンネル）を行った。

●海部会

「ごみ・流木の問題」「豊かな海の生物調査」「海と人の絆再生」「干潟・ヨシ原再生」の4つのテーマについて議論した。平成27年度は山部会と合同部会を行い、山と海に係わる様々な観点から活発な意見交換を行った。

■流域連携テーマに関する成果（市民会議で確認）

「ごみ・流木」については、トンボロ干潟での漂着状況の確認等、「土砂」については、ダムの砂を海へ運ぶイベントの検討、「木づかい」については、流域ものさしの製作提案等、問題解決に向けた活動が行われている。

2.協議事項（今後の運営方針と各部会の活動方針、流域連携テーマに関する活動方針、河川整備計画フォローアップについて）

■今後の運営方針と各部会の今後の活動方針

●今後の運営方針

・昨年度までの前期3ヶ年の運営方針を基本的に踏襲した上で、以下の4つを柱にしたいと考えている。
（1）各部会の活動成果の見える化　（2）山・川・海のメンバーの相互理解の促進
（3）流域連携テーマ検討の具体化　（4）河川整備計画のフォローアップの改善

●山部会の活動方針

・今後も4つのテーマを継承しながら、よりPR力のある情報発信、活動により築かれた人間関係を活用したイベントの開催、矢作川の水源かん養機能に配慮した森づくりの発信、木づかいガイドラインの流域内での水平展開を目標とする。

●川部会の活動方針

・今後も3つのテーマを継承しながら、これまでの蓄積をモデル化した情報共有・情報発信、継続的なモニタリングと順応的管理の実践、関係する委員会、自治体、団体との積極的な連携を目標とする。

●海部会の活動方針

・今後も4つのテーマを継承しながら、山や川との合同部会の設置と部会員同士の交流強化、矢作川を対象とした団体、個人への本懇談会活動への参加促進、活動拠点づくりを目標とする。

■流域連携テーマに関する活動方針

・「ごみ・流木」では、ごみマップの活用、「土砂」では、砂の駅等のイベントの検討、「木づかい」では、流域ものさしの製作等を具体的な目標とする。

■河川整備計画フォローアップについて

・河川整備計画の中で、以下の項目で矢作川流域圏懇談会が関わってきた。今後も、情報の提供や共有を図りながら進めていきたい。
（1）治水（現地での意見交換や見学）　（2）環境（勉強会・現地でのヨシ植え等）　（3）土砂管理（勉強会等）

◆話し合いでの主な意見

（• 意見　➢回答）

1.確認事項（H25～27の運営方針、各部会の活動進捗、流域連携テーマに関する成果）

■各部会の活動進捗

- 山部会は、昨年度と比べて、ほぼ同レベルあるいはそれ以上に活動ができたと思う。特に、９月には東幡豆で海部会との合同会議を開催することができたことで、矢作川流域圏の一体化に向けた大きな一歩ではないかと思う。また、有志によって森づくりや木づかいの先進事例を学ぶといった試みも初めて行った。（蔵治）
- 川部会は、家下川モデルにおいて、国と県と市の管理が複雑に入り組んでいる場所において管理者の整理を行い、各管理者に懇談会への出席を促した。矢作川流域圏懇談会がそのような場の提供を行えたことが、非常に良い進捗であったと思う。（内田）
- 海部会は、矢作ダムの砂を港湾部局のご協力を得て、トンボロ干潟周辺に干潟を造成したことが成果だ。その後、ここをフィールドにして、生き物の観察を行った。また、山部会との合同部会では、山の砂を海まで運ぶという砂の駅という提案があり、市民の意識改革やPRの方法を議論した。（青木）
- ３つの部会がとてもよく進捗している。特に、管理の違う行政の協働に結び付けられたことは、河川整備計画策定時からの課題に対応するものであり、一つの成果であると思う。また、市民を巻き込んで流域の問題を認識していく活動ができたという意見があり、これも一つの成果であると思う。（辻本）

■流域連携テーマに関する成果

- 山村再生担い手づくり事例集について、今年で３冊目となりますが、今年度は全体会議に間に合った。是非読んでもらいたいというお願いに加え、取材を行ったメンバーが山、川、海の境界を越えて、流域全体でのネットワーク化を図っていければよいと願っている。（蔵治）
- 今までの成果で、流域圏の人々との横のつながりができている。このつながりを活用したイベントなどで、流域圏懇談会をＰＲし、外に発信していきたい。（髙橋）
- 水は高い所から低い所へ流れるものであり止むを得ないが、海はその受け皿ではない。この流域圏懇談会は、立場の違いを話し合う機会を与えられたのだと思う。そのため、山・川・海の連携は密にすべきである。（石川）

2.協議事項（今後の運営方針と各部会の活動方針、流域連携テーマに関する活動方針、河川整備計画フォローアップについて）

■今後の運営方針と各部会の活動方針、流域連携テーマに関する活動方針

- 今回の資料に示された、懇談会の運営方針の図（懇談会の役割イメージ図）について、当初示された９年以降も続く図に差し替えるべきである。（蔵治）
- 山部会だけで完結して満足するのではなく、川部会や海部会の方々と連携しながら、時には街や海に出ていくことも含め、様々に取り組みたいと思う。（蔵治）
- 川部会では、メインとなるべき本川モデルの成果が出ていない。今後３年間で成果を出す必要があるので、山部会や海部会の方々にも協力をいただきながら進めていきたい。（内田）
- 海部会はメンバーが少ないことに加え、山と川の両方の影響を受ける点から、他部会と連携して何かしたいという意識が高い。また、市民を巻き込んだ干潟の調査を行うなど、なるべくフィールドに出て、活動の範囲を広げていきたい（青木）
- 皆さんの覚悟としては、一つのステージが終わり、実行のステージにステージアップするということを認識することだ。それから、川部会では、本川モデルの成果が出ていないという意見があったが、これは、河川整備計画に相当する根幹が不足するということであり、行政や河川の専門家は、情報を整理して対応する必要がある。（辻本）

■河川整備計画フォローアップについて

- 河川整備計画の多くの部分で、この流域圏懇談会が期待されていると感じた。川部会の本川モデルについて、山部会や海部会が関われる余地について教えていただきたい。（蔵治）
  - ➢ 山の管理や砂防施設の配置条件は、本川モデル区間の土砂運搬に十分関係するし、河川区間の整備をどのようにしてゆくのかという議論は、海までどれほどの土砂が到達するかに関わってくる。（内田）
- 今後３年間で土砂の議論を川部会と一緒にしたいと思う。（蔵治）

■全体

- 根羽、恵那、旭、豊田、岡崎、西尾の持ち回りで流域博覧会というようなイベントをやってはどうか。（丹羽）
  - ➢ 全国的にみても、流域圏ネットワークとか懇談会がうまく回っているところは、よいイベントが開催されているところだと思われる。（辻本）

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西１-６　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野

TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100

＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。

4. 山部会３ヶ年（平成 25 年度～平成 27 年度）の活動成果と課題

○平成 25 年度の活動成果

山村再生担い手づくり事例集

・山村で活動する団体への取材を行うことができた。
・事例集（Ⅰ）としてのとりまとめが実施できた。
・取材メンバーとして、川・海の一部のメンバーの参加がみられ連携のきっかけ作りを行うことができた。

取材先へのヒアリング風景

山村ミーティング

・年度内での WG 化はせず、関連する他団体の活動などがあった場合には情報共有を行った。

森づくりガイドライン

・森づくりガイドラインをよりよく理解するための「矢作川流域圏の森づくり」が行われ、メンバー間での情報共有を行うことができた。

木づかいガイドライン

・木づかいガイドラインの作成目的について共有化し、メンバーそれぞれにとっての木への想いについて意見交換ができた。
・作成に向けて WG の場でブレーンストーミングを行い、活発な意見交換ができた。

ブレーンストーミングの様子

○平成 26 年度の活動成果

山村再生担い手づくり事例集

・取材先として、川・海の団体を選定し、流域圏一体化に向けたきっかけ作りを行うことができた。
・「山村再生担い手づくり事例集の対象を増やしながら、川部会・海部会とも連携しながら作成する」という年度初めの目標に沿って、編集が行われた。
・前年度に続き、山村再生担い手づくり事例集(Ⅱ)を作成し、成果とした。

山村ミーティング

・WG において、関連する他団体の活動等に関する情報共有を行った。
・「各地域で実施されている活動と連携しながらできるところから進めていく」という年度初めの目標に対し、持ち回りで行われる山部会の会議に地元団体が出席した。

森づくりガイドライン

・流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインの作成が始まった。
・流域圏を構成する自治体から特徴的な森づくりに関する情報収集(現地調査含む)を山部会 WG で行った。

森づくりに関する情報収集（現地調査）

木づかいガイドライン

・「矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る」という目標に対し、木づかいガイドラインの骨子を示し、部会内で意見交換を行った。
・市民・行政・学識者から見た木づかいの推進策をまとめた木づかいガイドライン(案)について意見交換を行い、とりまとめた。

木づかい推進の取組みの見学

○平成27年度の活動成果

データの構築（マップ作成）

山村再生担い手づくり事例集

・山村再生担い手づくり事例集は、3ヶ年で計64活動団体を取材し、各年の成果をそれぞれ事例集Ⅰ,Ⅱ,Ⅲとして出版した。
・山・川・海の部会の枠を越えた連携により、取材・編集が行われた。
・過去の取材者が取材される立場になったり、取材者と取材先が新たなイベントを開催したり、新たな人間関係が生まれた。
・大学の講義（体験実習）に山村再生担い手づくり事例集が活用された。

山村ミーティング

・北海道中川町でのきこり祭りのような他地域でのイベントの成功事例が周知された。
・矢作川流域圏の規模が大きいこと、雇用主と被用者および林業従事者とボランティアの価値観が異なること、といった理由から、きこりに絞ったイベントの開催は難しいという認識を共有した。
・山村再生担い手づくり事例集や木づかいと連携したイベントの開催は可能である。
・豊田足助地区のもみじ祭りを山村ミーティングに活用できないかという意見が挙がった。

森づくりガイドライン

・流域の県・市村から森づくりの事例および間伐面積の情報収集（現地視察含む）を行い、現状と課題を明らかにした。
・流域の特徴的な森林と巨木・並木について、WGで意見交換を実施し、選定作業を行った。所在地については、マップに表示し見える化を進めた。
・豊田市の森づくりに関する新規事業では、今後、水源かん養機能に関わる試験林の設定が予定されている。また岡崎市においては、国の法律（水循環基本法）に先立って条例（水を守り育む条例）が制定され、水循環推進協議会に対する「緑のダム部会」が設置された。これらの動きは、いずれも国をリードする取組みであり、WGとして意見を発信していくべきであることが周知された。
・モデル林となる森林（アライダシ自然観察教育林、荒山林業等）を見学した。

木づかいガイドライン

・根羽村森林組合による木づかいライブ・スギダラキャラバンを展開した。
・流域ものさしの作成においては、WGで製作方法を協議し、木材の入手方法を検討した。
・カーボンオフセットを活用した木づかいの推進、プレイスメイキングによる集客力の向上についてWGで周知された。

○今後の課題

山村再生担い手づくり事例集

・事例集の活用や市民への普及
・事例集の効果の検証

山村ミーティング

・きこり祭りに代わるイベントの検討（例　流域フェスティバルや流域（山村）文化祭（仮称））
・森林組合や流域の担い手との繋がり強化

森づくりガイドライン

・流域自治体の森づくりに関する最新情報および自治体への意見発信。
・流域の森づくり（特徴的な森林等）の集約
・構築したデータの公表および周知方法の検討

木づかいガイドライン

・山村再生担い手づくり事例集、山村ミーティングとの連携強化
・WGにおける展開方法、役割分担の検討